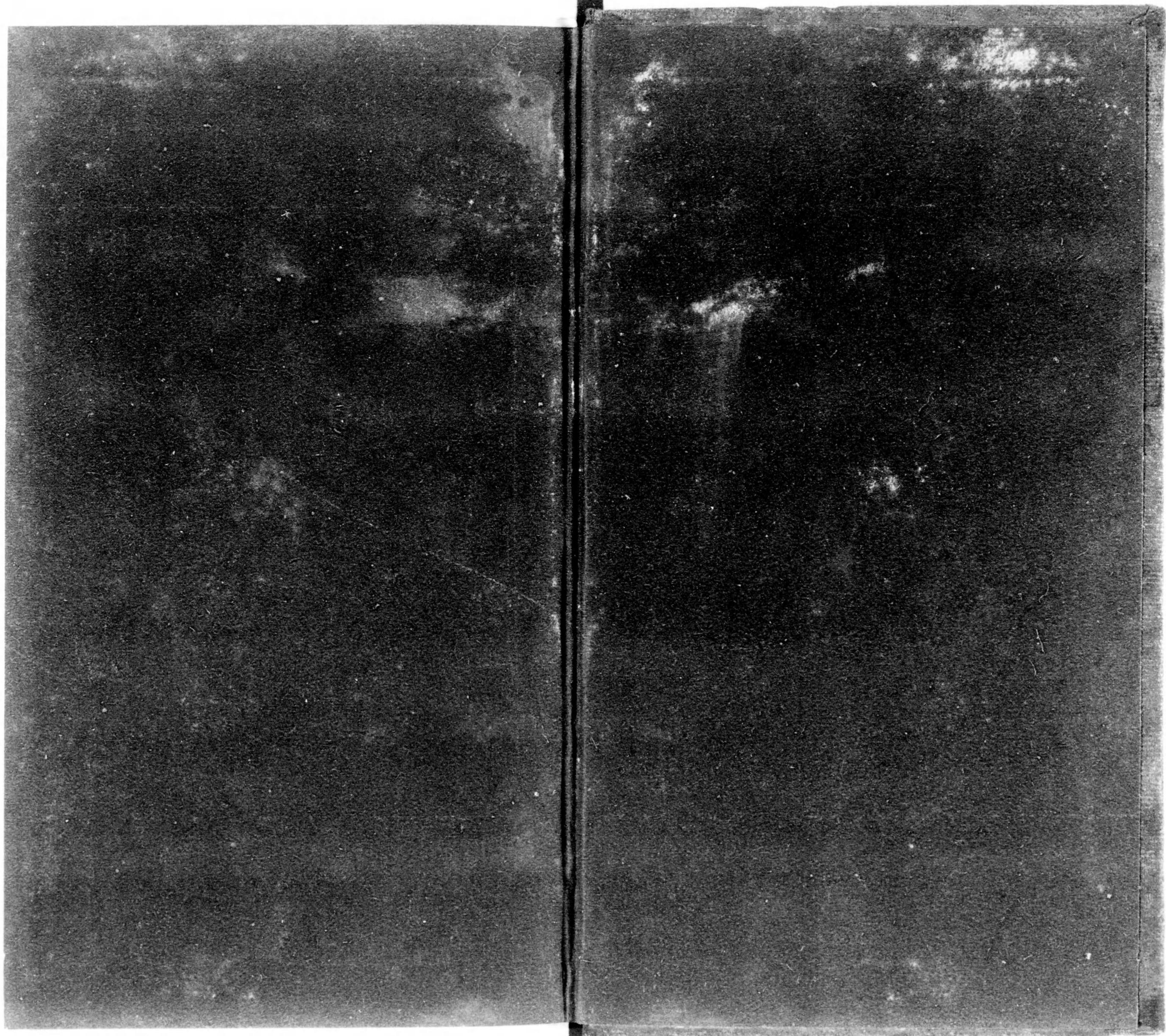


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

始





特101
667



家在
曹洞
宗聖
典

大正
2. 12. 18
内交



七
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

凡例

- 一、本書は我が曹洞の宗門で日夕最も多く讀誦する經典を類輯したものです。
- 一、日常讀むお經の中には。音讀したり訓讀したりするものと。單に訓讀ばかりのものがあります。で。兩様の方は音訓共。訓讀の方は延べ書きにして載せてあります。
- 一、お經の訓讀は凡て從來一般に用ひて居る讀方にしてあります。
- 一、常に用ふるお經でも。金剛經とか楞嚴咒といふ様な長いものは。紙數

に限られて残念乍ら省きました。

一、お經の題號が二三通りになつて居るのは。それぐの別名で。これを用ひても宜しいのです。

二、回向文も極めて僅かで毎日讀むものゝ外。在家用のもの二三だけで止めましたが。これも紙數の都合で致方がないのです。

大正二年十二月

編者しるす

在家曹洞宗聖典

目次

偈文類	……………	(一一六)
三歸禮文	……………	一
懺悔文	……………	二
三歸戒文	……………	二
四弘誓願文	……………	二
舍利禮文	……………	三
觀音十大願	……………	四
開經偈	……………	六

經類

般若心經	……………	(七一五六)
同和譯	……………	七
觀音經	……………	九
同和譯	……………	一一
十一面觀音經	……………	三四
遺教經和譯	……………	三七
陀羅尼類	……………	(五四一七〇)
大悲咒	……………	五四

在家曹洞宗聖典

偈文類

○三歸禮文

自歸依佛。
當願衆生。
統理大衆。

當願衆生。
深入經藏。
一切無礙。

體解大道。
智慧如海。

發無上心。
自歸依僧。

自歸依法。
當願衆生。

消災咒 五七
佛頂尊勝陀羅尼 五八
甘露門 六一
寶篋印陀羅尼 六八
準提贊陀羅尼 七〇
祖訓類 (七一)
修證義 七一
三同契和譯 八五
寶鏡三昧和譯 八七

信心銘和譯 九〇
證道歌和譯 九四
坐禪儀和譯 一〇五
坐禪箴和譯 一一〇
承陽大師和讚 一一一
回向類 (一一七—一二八)
附記 (一二九—一三四)
曹洞宗信徒心得 一二九

○懺悔文 長跪合掌。或 一唱一拜三遍

我昔所造諸惡業。皆由無始貪瞋癡。從身口意之所生。一切我今皆懺悔。

○三歸戒文 一唱一拜三遍

南無歸依佛。南無歸依法。南無歸依僧。歸依法離塵尊。歸依僧和合尊。歸依佛竟。歸依法竟。歸依僧竟。

○四弘誓願 一唱一拜三遍

衆生無邊誓願度。煩惱無盡誓願斷。法門無量誓願學。

佛道無上誓願成。

○舍利禮文

一心頂禮。萬德圓滿。釋迦如來。眞身舍利。本地法身。法界塔婆。我等禮敬。爲我現身。入我入。佛加持故。我證菩提。以佛神力。利益衆生。發菩提心。同入圓寂。平等大智。今將頂禮。

○舍利禮文 (和譯)

一心に萬德圓滿したまへる。釋迦如來の眞身舍利を頂禮したてまつるに。本地の法身は法界の塔婆なり。我等禮敬したてまつれば。我が爲に身を現

じて。入我我入したまふ。佛の加持の故に。我れ菩提を證し。佛の神力を以て。衆生を利益せん。菩提心を發し。菩薩行を修して。同じく圓寂平等の大智に入る。今將に頂禮したてまつらんとす。

○觀音十大願文

南無大悲觀世音。願我速知一切法。
南無大悲觀世音。願我速得戒定道。
南無大悲觀世音。願我早得智慧眼。
南無大悲觀世音。願我早得善方便。
南無大悲觀世音。願我早得越苦海。
南無大悲觀世音。願我速得戒定道。
南無大悲觀世音。願我速會無爲舍。

願我早登涅槃山。願我早同法性身。願我速會無爲舍。
南無大悲觀世音。願我早同法性身。
我若向刀山。刀山自摧折。我若向火湯。火湯自消滅。
我若向地獄。地獄自枯竭。我若向餓鬼。餓鬼自飽滿。
我若向修羅。惡心自調伏。我若向畜生。自得大智慧。

南無大悲觀世音 三稱三禮 (導師振鈴唱曰)

爾時觀世音菩薩。說大悲神咒形貌狀相曰。同誦衆 大慈悲心是。平

等心是。無爲心是。無染着心是。空觀心是。恭敬心是。卑下心是。無雜亂心是。無見取心是。無上菩提心是。二打(導師振鈴唱曰) 當知如是等心。即是陀羅尼相貌。汝等當依此修行之。次導師舉普門品。或偈了

普同向。三拜散堂。

○開經偈

無上甚深微妙法。

百千萬劫難遭遇。

我今見聞得受持。

願解如來真實義。

經類

○般若心經 (心經)

摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。受想行識亦復如是。舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。是故空中無色。無受想行識。無眼耳鼻舌身意。無色聲香味觸法。無眼界。乃至無意識界。無無明亦無無明盡。乃至無老死亦無老死盡。無苦集滅道。無

智亦無得。以無所得故。菩提薩埵。依般若波羅蜜多故。心無罣礙。無
罣礙故。無有恐怖。遠離一切顛倒夢想。究竟涅槃。三世諸佛。依般若
波羅蜜多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知般若波羅蜜多。是大神
咒。是大明咒。是無上咒。是無等等咒。能除一切苦。真實不虛。故說般
若波羅蜜多咒。即說咒曰。羯諦羯諦。波羅羯諦。波羅羯諦。菩提薩
婆訶。

般若心經(畢)

○般若心經(和釋)

觀自在菩薩。深般若波羅蜜多。行時。五蘊皆空。なりと照見して。一切
の苦厄を度したまふ。舍利子。色は空に異ならず。空は色に異ならず。色
即ち是れ空。空即ち是れ色。受想行識も亦復是の如し。舍利子。是の諸法
は空相にして。生ぜず。滅せず。垢つかず。淨からず。増さず。減らず。
是の故に空中には色もなく。受想行識もなく。眼耳鼻舌身意もなく。色聲
香味觸法もなく。眼界もなく。乃至意識界もなく。無明もなく。亦無明の
盡ることもなく。乃至老死もなく。亦老死の盡ることもなく。苦集滅道もなく。
智もなく。亦得もなし。所得なきを以ての故に。菩提薩埵。般若波羅蜜多に

依るが故に。心罣礙なし。罣礙なきが故に。恐怖あるとなし、一切の顛倒
夢想を遠離して。涅槃を究竟す。三世諸佛。般若波羅蜜多に依るが故に。
阿耨多羅三藐三菩提を得たまへり。故に知る。般若波羅蜜多は。是れ大神
咒なり。是れ大明咒なり。是れ無上咒なり。是れ無等等咒なり。能く一切
の苦を除きて。眞實にして虚ならず。故に般若波羅蜜多の咒を説く。即ち
咒を説て曰く。

羯諦羯諦。波羅羯諦。波羅僧羯諦。菩提娑婆訶。

般若心經和譯 (畢)

○ 觀 音 經

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

爾時無盡意菩薩。即從座起。偏袒右肩。合掌向佛。而作是言。世尊。觀
世音菩薩。以何因緣。名觀世音。佛告無盡意菩薩。善男子。若有無量
百千萬億衆生。受諸苦惱。聞是觀世音菩薩。一心稱名。觀世音菩薩。
即時觀其音聲。皆得解脫。若有持是觀世音菩薩名者。設入大火。火
不能燒。由是菩薩威神力故。若爲大水所漂。稱其名號。即得淺處。若
有百千萬億衆生。爲求金銀。瑠璃。砗磲。碼碯。珊瑚。琥珀。眞珠等寶。入

於大海假使黑風吹其船舫飄墮羅刹鬼國其中若有乃至一人稱
觀世音菩薩名者是諸人等皆得解脫羅刹之難以是因緣名觀世
音若復有人臨當被害稱觀世音菩薩名者彼所執刀杖尋段段壞
而得解脫若三千大千國土滿中夜叉羅刹欲來惱人聞其稱觀世
音菩薩名者是諸惡鬼尙不能以惡眼視之況復加害設復有人若
有罪若無罪枷鎖檢繫其身稱觀世音菩薩名者皆悉斷壞即
得解脫若三千大千國土滿中怨賊有一商主將諸商人齎持重寶
經過險路其中一人作是唱言諸善男子勿得恐怖汝等應當一心
稱觀世音菩薩名號是菩薩能以無畏施於衆生汝等若稱名者於
此怨賊當得解脫衆商人聞俱發聲言南無觀世音菩薩稱其名故

即得解脫無盡意觀世音菩薩摩訶薩威神之力巍巍如是若有衆
生多於姪欲常念恭敬觀世音菩薩便得離欲若多瞋恚常念恭敬
觀世音菩薩便得離瞋若多愚癡常念恭敬觀世音菩薩便得離癡
無盡意觀世音菩薩有如是等大威神力多所饒益是故衆生常應
心念若有女人設欲求男禮拜供養觀世音菩薩便生福德智慧之
男設欲求女便生端正有相之女宿植德本衆人愛敬無盡意觀世
音菩薩有如是力若有衆生恭敬禮拜觀世音菩薩福不唐捐是故
衆生皆應受持觀世音菩薩名號無盡意若有人受持六十二億恒
河沙菩薩名字復盡形供養飲食衣服臥具醫藥於汝意云何是善
男子善女人功德多不無盡意言甚多世尊佛言若復有人受持觀

德以種種形遊諸國土度脫衆生是故汝等應當一心供養觀世音菩薩是觀世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無畏是故此娑婆世界皆號之爲施無畏者無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀世音菩薩卽解頸衆寶珠瓔珞價直百千兩金而以與之作是言仁者受此法施珍寶瓔珞時觀世音菩薩不肯受之無盡意復白觀世音菩薩言仁者愍我等故受此瓔珞爾時佛告觀世音菩薩當感此無盡意菩薩及四衆天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那摩睺羅伽人非人等受其瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼佛一分奉多寶佛塔無盡意觀世音菩薩有如是自在神力遊於娑婆世界爾時無

盡意菩薩以偈問曰。世尊妙相具足妙相尊。弘誓深如海。我爲汝略說。假使興害意。或漂流巨海。或在須彌峯。或被惡人逐。或值怨賊遶。

我今重問彼。偈答無盡意。歷劫不思議。聞名及見身。推落大火坑。龍魚諸鬼難。爲人所推墮。墮落金剛山。各執刀加害。

佛子何因緣。汝聽觀音行。侍多千億佛。心念不空過。念彼觀音力。念彼觀音力。念彼觀音力。念彼觀音力。念彼觀音力。念彼觀音力。念彼觀音力。

名爲觀世音。善應諸方所。發大清淨願。能滅諸有苦。火坑變成池。波浪不能沒。如日虛空住。不能損一毛。咸卽起慈心。

觀音經 (畢)

○觀音經 (和譯)

爾の時に無盡意菩薩。即ち座より起て偏に右の肩を袒ぎ。掌を合せ佛に向ひたてまつりて。是の言を作さく。世尊。觀世音菩薩は。何の因縁を以てか。觀世音と名くるやと。佛。無盡意菩薩に告げてのたまはく。善男子。若し無量百千萬億の衆生ありて。諸の苦惱を受けむに。是の觀世音菩薩を聞いて。一心に稱名せば。觀世音菩薩。即時に其の音聲を觀じて。皆解脱することを得せしめむ。若し是の觀世音菩薩の名を持する者あらむに。設ひ大火に入るとも。火も焼くこと能はず。是の菩薩の威神力に由るが故に。若し大水の爲に漂はされむにも。其の名號を稱せば。即ち淺き處を得む。

若し百千萬億の衆生ありて。金。銀。瑠璃。砗磲。瑪瑙。珊瑚。琥珀。眞珠等の寶を求めむが爲めに。大海に入らむに。假使黒風其の船舫を吹いて。羅刹鬼國に飄ひ墮むにも。其の中若し乃至一人も觀世音菩薩の名を稱する者あらば。是の諸人等。皆羅刹の難を解脱することを得む。是の因縁をもて。觀世音と名く。若し復人あり。當に害せらるべきに臨んで。觀世音菩薩の名を稱せば。彼の執る所の刀杖。尋いて段々に壞れて。解脱することを得む。若し三千大千國土の中に滿る夜叉羅刹の來りて人を惱さむと欲せむに。其の觀世音菩薩の名を稱する者を聞かば。是の諸の惡鬼。尙惡眼をもて之を視ること能はず。況や復害を加へむをや。設ひ復人ありて。若くは罪あり。若くは罪なきも。杻械枷鎖もて其身を檢繫せられむに。觀世音菩薩の

名を稱せば。皆悉く斷壞して。即ち解脱することを得む。若し三千大千國土の中に滿る怨賊あらむに。一りの商の主ありて。諸の商人を將る。重寶を齎み持ちて。險路を經過ぎむに。其の中の一人是の唱を作して言く。諸の善男子。恐れ怖るることを得ること勿れ。汝等應當に一心に觀世音菩薩の名號を稱すべし。是の菩薩は能く無畏をもて衆生に施したまふ。汝等若し名を稱せば。此の怨賊に於て當に解脱することを得べしと。衆の商人聞いて。俱に聲を發して言く。南無觀世音菩薩と。其の名を稱するが故に。即ち解脱することを得む。無盡意。觀世音菩薩摩訶薩は。威神の力巍巍たることは是くの如し。若し衆生ありて姪慾多からむに。常に念じて觀世音菩薩を恭敬せば。便ち慾を離るることを得む。若し瞋恚多からむに。常

に念じて觀世音菩薩を恭敬せば。便ち瞋を離るることを得む。若し愚癡多からむに。常に念じて觀世音菩薩を恭敬せば。便ち癡を離るることを得む。無盡意。觀世音菩薩は。是くの如き等の大威神力ありて饒益する所多し。是の故に衆生常に應に心に念すべし。若し女人ありて。設ひ男を求めむと欲して。觀世音菩薩を禮拜供養せば。便ち福德智慧の男を生まむ。設ひ女を求めむと欲せば。便ち端正有相の女の。宿し徳本を植ゑて。衆人に愛敬せらるるを生まむ。無盡意。觀世音菩薩は。是くの如き力あり。若し衆生ありて。觀世音菩薩を恭敬禮拜せば。福唐捐ならず。是の故に衆生皆應に觀世音菩薩の名號を受持すべし。無盡意。若し人ありて六十二億恒河沙の菩薩の名字を受持し。復形を盡すまで。飲食。衣服。臥具。醫藥を供養せ

むに。汝が意に於て云何。是の善男子善女人の功德多きや不やと。無盡意言く。甚だ多し。世尊。佛言く。若し復人ありて。觀世音菩薩の名稱を受持し。乃至一時も禮拜供養せむに。是の二人の福は。正に等うして異なること無けむ。百千萬億劫に於ても窮め盡すべからず。無盡意。觀世音菩薩の名號を受持せば。是くの如く無量無邊なる福德の利を得む。無盡意菩薩。佛に白して言く。世尊。觀世音菩薩は。云何にしてか此の娑婆世界に遊び。云何にして。衆生の爲に說法したまふ。方便の力其事云何と。佛。無盡意菩薩に告げてのたまはく。善男子。若し國土の衆生ありて。應に佛身をもて得度すべき者には。觀世音菩薩。即ち佛身を現じて爲に說法し。應に辟支佛身をもて得度すべき者には。則ち辟支佛身を現じて爲に説

の國土に遊び。衆生を度脱す。是の故に汝等應當に一心に觀世音菩薩を供養すべし。是の觀世音菩薩摩訶薩は。怖畏急難の中に於て。能く無畏を施す。是の故に此の娑婆世界。皆之を號して施無畏者と爲す。無盡意菩薩。佛に白して言く。世尊。我れ今當に觀世音菩薩を供養したてまつるべしと。即ち頸なる衆寶珠の瓔珞の。價直百千兩金なるを解いてもて。之を與へて是の言を作さく。仁者。此の法施の珍寶瓔珞を受けたまへと。時に觀世音菩薩。肯て之を受けたまはず。無盡意復た觀世音菩薩に白して言さく。仁者。我等を惑むが故に。此の瓔珞を受けたまへと。爾の時に佛。觀世音菩薩に告げてのたまはく。當に此の無盡意菩薩。及び四衆。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦樓羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等を惑むが故に。其の瓔珞を

受くべしと。即時に觀世音菩薩。諸の四衆。及び天。龍。人非人等を惑みて。其の瓔珞を受け。分つて二分と作し。一分は釋迦牟尼佛に奉り。一分は多寶佛塔に奉りたまひぬ。無盡意。觀世音菩薩は。是くの如きの自在神力ありて。娑婆世界に遊びたまふ。爾の時に無盡意菩薩。偈をもて問うて曰く。世尊は妙相を具し給ふ。我今重ねて彼を問ひ奉る。佛子何の因縁をもてか。名けて觀世音と爲すやと。具足妙相尊。偈をもて無盡意に答へて宜く。汝聽け觀音の行は。善く諸の方所に應じて。弘誓の深きと海の如し。歷劫にも思議せられず。多の千億の佛に侍へて。大清淨の願を發せり。我汝が爲に略して説かむ。名を聞き及び身を見。心に念じて空しく過さずむば。能く

諸有の苦を滅し給ふ。假使害意を興して。大火坑に推し落されむにも。彼の
觀音の力を念すれば。火坑變じて池と成らむ。或は巨海に漂ひ流れて。龍魚
諸の鬼難あらむにも。彼の觀音の力を念すれば。波浪も没むると能はざら
む。或は須彌の峯に在りて。人の爲に推し墮されむにも。彼の觀音の力を念
すれば。日の如くにして虚空に住せむ。或は惡人に逐れて。金剛山より墮
ち落ちむにも。彼の觀音の力を念すれば。一毛を損すること能はざらむ。
或は怨賊繞み。各刀を執りて害を加ふるに値はむにも。彼の觀音の力を
念すれば。威く即ち慈心を起さむ。或は王難の苦に遭ひ。刑るるに臨で壽
終らむと欲せむにも。彼の觀音の力を念すれば。刀尋で段々に壞れむ。或は
囚れて枷鎖に禁せられ。手足桎械せられむにも。彼の觀音の力を念すれば。

釋然として解脱するを得む。呪詛諸の毒藥をもて。身を害せむと欲する
所の者あらむにも。彼の觀音の力を念すれば。還りて本人に著かむ。或は
惡羅刹。毒龍諸の鬼等に遇はむにも。彼の觀音の力を念すれば。時に悉く
敢て害せざらむ。若し惡獸に圍繞せられ。利き牙爪の怖る可きにも。彼の
觀音の力を念すれば。疾く無邊の方に走らむ。蚯蚓及び蝮蠍の。氣毒煙火の
如くに燃むにも。彼の觀音の力を念すれば。聲に尋いで自から回り去らむ。
雲雷鼓り掣電し。雹を降し大雨を澍がむにも。彼の觀音の力を念すれば。
時に應じて消え散ることを得む。衆生困厄せられ。無量の苦身に逼らむに
も。觀音の妙智力は。能く世間の苦を救はむ。神通力を具足し。廣く智方便
を修め。十方諸の國土。刹として身を現せざるは無し。種々諸の惡趣。地獄

鬼畜生。生老病死の苦。以て漸く悉く滅せしめむ。真觀清淨觀。廣大智慧觀。悲觀及び慈觀あり。常に願ひ常に瞻仰せよ。無垢清淨の光ありて。慧日諸の闇を破り。能く災の風火を伏して。普く明かに世間を照す。悲體戒雷のごとくに震ひ。慈意妙に大なる雲のごとし。甘露の法雨を澍いで。煩惱の燄を滅除す。諍ひ訟へられて官處を經。怖畏なる軍陣の中にも。彼の觀音の力を念すれば。衆の怨悉く退散せむ。妙音觀世音。梵音海潮音。彼の世間の音に勝れり。是の故に須く常に念すべし。念念疑ひを生ずること勿れ。觀世音は淨聖にして。苦惱死厄に於て。能く爲に依怙と作りたまふ。一切の功德を具し。慈眼もて衆生を視たまひ。福聚の海無量なり。是の故に應に頂禮したてまつるべし。

爾の時に持地菩薩即ち座より起て。前んで佛に白して言さく。世尊。若し衆生ありて。是の觀世音菩薩品。自在の業。普門示現神通の力を聞かむ者は。當に知るべし。是の人の功德少なからざることを。佛。是の普門品を説きたまひし時。衆中八萬四千の衆生。皆無等等なる阿耨多羅三藐三菩提心を發しき。

〇十一面觀音經

(十一面觀世音菩薩願即得陀羅尼經)

如是我聞。一時佛在補陀落山。為衆說法。爾時觀世音菩薩白佛言。我有神咒。若有衆生。有受持者。除却一切病患。憂苦消除。一切惡業。煩惱除身口意業。皆令清淨。心中百千萬億等事。無不成就。我此神咒。有大神驗。一切諸佛讚嘆護念。我於過去無量劫前。受持此咒。見十方佛。證無生法。忍復得慈悲喜捨平等法門。令一切有情安立於無上道。救諸險難。令得安穩。若每日誦一百八遍。萬病消滅。壽命長遠。常為十方諸佛護念。財寶衣食。令無所乏。獲得衆人恭敬愛念。不復更為一切災橫。魚蛇刀杖毒藥咒詛怨賊水火之所能害。遠離怖

畏。獲得安穩。臨命終時。見十方佛。往生極樂。不墮惡趣。爾時佛讚善哉。大士。為諸有情。欲宣此咒。我亦受持。汝速說之。時觀世音菩薩即說咒曰。唵摩訶迦盧尼迦娑婆訶。說此咒已。白佛言。若有男女。誦此咒一遍。十惡五逆。一切罪障。皆悉消滅。除諸病苦。離諸怖畏。超生死海。到涅槃岸。若復有人。稱念十萬億那由多諸佛名號。不如暫時。至心稱念我之名號。得福勝彼。宿福薄者。不聞此咒。及我名。何況輒得受持。讀誦。若能至心誦咒。念我現身。獲得飛行自在。神通變化。如我無異。復次有人。貧窮下賤。多受病苦。愚癡暗鈍。不辨善惡。若能誦持此咒。稱念我名。一切所求。必定成

就富貴自在無病安樂得智辯才。世出世事無不稱意。乃至證得無上菩提。若有女人願捨女身。誦持此咒。轉女成男。所生之處。常在佛前。蓮華化生。若在人間。得爲輪王。恒轉法輪。究竟涅槃。爾時觀世音菩薩說此咒已。一切大衆歡喜讚歎。遶佛三匝。作禮而去。

十一面觀音經 (畢)

遺教經 (和譯)

(佛垂般涅槃略說教誡經)

釋迦牟尼佛。初に法輪を轉じて。阿若憍陳如を度し。最後の說法に須跋陀羅を度したまふ。應に度すべき所の者は。皆已に度し訖つて。娑羅雙樹の間に於て。將に涅槃に入りたまはんとす。是の時中夜寂然として聲無し。諸の弟子の爲に略して法要を説きたまふ。汝等比丘。我が滅後に於て。當に波羅提木叉を。尊重し珍敬すべし。闇に明に遇ひ。貧人の寶を得るが如し。當に知るべし。此は即ち是れ汝等が大師なり。若し我れ世に住するとも。此に異なること無けん。淨戒を持たん者

は。販賣貿易し。田宅を安置し。人民奴婢畜生を畜養することを得ざれ。一切の種植及び諸の財寶。皆當に遠離すること火坑を避るが如くすべし。草木を斬伐し。土を墾し地を堀り。湯藥を合和し。吉凶を相占し。星宿を仰觀し。盈虚を推歩し。曆數算計することを得ざれ。皆應せざる所なり。身を節し時に食して。清淨にして自活せよ。世事に參預し。使命を通知し。咒術し仙藥し。好みを貴人に結び。親厚媒慢することを得ざれ。皆作に應せず。當に自ら端心正念にして度を求むべし。瑕疵を包藏し。異を顯し衆を惑はすことを得ざれ。四供養に於て量を知り足ることを知るべし。趣に供事を得て。畜積す應らず。此れ則ち略して持戒の相を説く。戒は是れ正順解脱の本なり。故に波羅提木叉と名く。此の戒に依因すれば。諸の禪定

及び滅苦の智慧を生ずることを得。是の故に比丘。當に淨戒を持つて。毀缺せしむること勿るべし。若し人能く淨戒を持すれば。是れ則ち能く善法あり。若し淨戒無ければ。諸善の功德。皆生ずることを得ず。是を以て當に知るべし。戒は第一安穩功德の所住處たることを。汝等比丘。已に能く戒に住す。當に五根を制すべし。放逸にして五欲に入らしむること勿れ。譬へば牧牛の人の杖を執つて。之を視せしめて。縱逸にして人の苗稼を犯さしめざるが如し。若し五根を縱にすれば。唯五欲の將に涯畔無して制す可らざるのみにあらず。亦た惡馬の轡を以て制せざれば。將當に人を牽て。坑陷に墜さんとするが如し。劫害を被むるが如くんば。苦一世に止まる。五根の賊は禍殃累世に及ぶ。害たること甚だ重

し。慎ますんばあるべからず。是の故に智者は制して而も隨はず。之を持
すること賊の如くにして。縦逸ならしめざれ。假令之を縦にするとも。
皆亦た久しからずして其の磨滅を見ん。此の五根は心を其の主と爲す。是
故に汝等當に好く心を制すべし。心の畏るべきこと毒蛇。惡獸。怨賊よりも
甚し。大火の越逸なるも。未だ喩とするに足らず。譬へば人あつて手に
蜜器を執つて。動轉輕躁して。但だ蜜のみを觀て。深坑を見ざるが如し。
又た狂象の鉤なく。猿猴の樹を得て騰躍。踴躑して。禁制すべきこと難き
が如し。當に急に之を挫ひて。放逸ならしむること無かるべし。此の心を
縦にすれば。人の善事を喪ふ。之を一處に制すれば。事として辨せずと
いふこと無し。是故に比丘當に勤めて精進して。汝が心を折伏すべし。

汝等比丘。諸の飲食を受けては。當に藥を服するが如くすべし。好きに於て
も。惡きに於ても。増減を生ずること勿れ。趣に身を支ふことを得て以
て飢渴を除け。蜂の華を採るに。但其の味のみを取て。色香を損せざるが
如し。比丘も亦た爾なり。人の供養を受けて趣に自ら惱を除け。多く求め
て其の善心を壞することを得ること無れ。譬へば智者の牛力の堪ふる所の
多少を籌量して。分に過して以て。其の力を竭さしめざるが如し。
汝等比丘。晝は則ち勤心に善法を修習して。時を失せしむること無れ。初
夜にも後夜にも亦た廢すること有ること勿れ。中夜に誦經して以て自ら消
息せよ。睡眠の因縁を以て。一生空しく過して所得なからしむること無
れ。當に無常の火の諸の世間を燒ことを念じて。早く自度を求むべし。睡

眠すること勿れ。諸の煩惱の賊。常に伺つて人を殺すこと。怨家よりも甚し。安んぞ睡眠して自ら警寤せざる可けんや。煩惱の毒蛇。睡つて汝が心に在り。譬ば黒虻の汝が室に在て眠るが如し。當に持戒の鈎を以て早く之を屏除すべし。睡蛇既に出でなば乃ち安眠すべし。出でざるに而も眠るは是れ無慙の人なり。慙恥の服は諸の莊嚴に於て最も第一なりとす。慙は鐵鈎の如く。能く人の非法を制す。是の故に比丘常に當に慙恥すべし。暫くも替つることを得ること勿れ。若し慙恥を離すれば。則ち諸の功德を失す。有愧の人は則ち善法あり。若し無愧の者は諸の禽獸と相異なること無し。汝等比丘。若し人あり來つて節節に支解するとも。當に自ら心を攝めて瞋恨せしむること無かるべし。亦た當に口を護るべし。惡言を出すこと勿れ。

若し恚心を縦にすれば。則ち自ら道を妨げ。功德の利を失す。忍の徳たること持戒苦行も及ぶこと能はざる所なり。能く忍を行する者は。乃ち名けて有力の大人と爲す。若し其れ惡罵の毒を歡喜し忍受して。甘露を飲むが如くすること能はざるものは。入道智慧の人と名けず。所以は何んとなれば。瞋恚の害は則ち諸の善法を破り。好名聞を壞す。今世後世の人見んことを喜はず。當に知るべし。瞋心は猛火よりも甚だし。常に當に防護すべし。入ること得せしむること勿れ。功德を切すむるの賊は瞋恚に過ぎたるは無し。白衣受欲非行道の人。法として自ら制すること無きすら。瞋猶ほ怒むべし。出家行道無欲の人にして。而も瞋恚を懷けるは甚だ不可なり。譬へば清冷の雲の中に霹靂火を起すは。所應に非ざるが如し。

汝等比丘。當に自ら頭を摩づべし。已に飾好を捨てて。壞色の衣を着し。應器を執持して。乞を以て自活す。自見是の如し。若し憍慢起らば。當に疾く之れを滅すべし。憍慢を増長するは。尙ほ世俗白衣の宜しき所に非ず。何に況んや出家入道の人。解脱の爲の故に。自ら其の身を降して而も乞を行するをや。

汝等比丘。諂曲の心は道と相違す。是の故に宜しく應に其の心を質直にすべし。當に知るべし。諂曲は但欺誑を爲すことを。入道人は則ち是の處し。是の故に汝等宜しく應に端心にして質直を以て本と爲すべし。

汝等比丘。當に知るべし。多欲の人は利を求むること多きが故に苦惱も亦た多し。少欲の人は無求無欲なれば則ち此の患無し。直爾に少欲すら尙ほ

修習すべし。何に況んや。少欲の能く諸の功德を生ずるをや。少欲の人は則ち諂曲して以て人の意を求むること無し。亦復諸根の爲めに牽れず。少欲を行する者は。心則ち坦然として憂畏する所無し。事に觸れて餘り有り。常に足らざること無し。少欲ある者は則ち涅槃あり。是を少欲と名く。

汝等比丘。若し諸の苦惱を脱せんと欲せば。當に知足を觀すべし。知足の法は即ち是れ富樂安穩の處なり。知足の人は地上に臥すと雖も。猶ほ安樂なりとす。不知足の者は。天堂に處すと雖も。亦た意に稱はず。不知足の者は富めりと雖も而も貧しし。知足の人は貧しと雖も而も富めり。不知足の者は常に五欲の爲めに牽かれて。知足の者の爲めに憐愍せらる。是を知足と名く。

汝等比丘。寂靜無爲の安樂を求めんと欲せば。當に憤闘を離れて獨處に閑居すべし。靜處の人は。帝釋諸天の共に敬重する所なり。是故に當に己衆他衆を捨てて。空閑に獨處して。滅苦の本を思ふべし。若し衆を樂ふ者は則ち衆惱を受く。譬へば大樹の衆鳥之れに集まれば。則ち枯折の患あるが如し。世間の縛著は衆苦に没す。譬へば老象の泥に溺れて。自ら出ることを能はざるが如し。是を遠離と名く。汝等比丘。若し勤めて精進すれば。則ち事として難き者なし。是の故に汝等當に勤めて精進すべし。譬へば少水の常に流れて。則ち能く石を穿つが如し。若し行者の心數數懈廢すれば。譬へば火を鑽るに未だ熱からずして而も息めば。火を得んと欲すと雖も。火を得べきこと難きが如し。是を

精進と名く。汝等比丘。善知識を求め。善護助を求むることは。不念に如くは無し。若し不念ある者は。諸の煩惱の賊。則ち入ること能はず。是の故に汝等常に當に念を攝めて心に在くべし。若し念を失する者は則ち諸の功德を失す。若し念力堅強なれば。五欲の賊の中に入ると雖も。爲めに害せられず。譬へば鎧を著て陣に入れば。則ち畏るる所なきが如し。是を不念と名く。汝等比丘。若し念を攝むる者は心則ち定に在り。心定に在るが故に能く世間生滅の法相を知る。是の故に汝等常に當に精進して。諸の定を修習すべし。若し定を得る者は心則ち散せず。譬へば水を惜めるの家の善く堤塘を治するが如し。行者も亦た爾なり。智慧の水の爲めの故に。善く禪定を修

して漏失せざらしむ。是を名けて定と爲す。
汝等比丘。若し智慧あれば則ち貪著なし。常に自ら省察して失あらしめざれ。是れ則ち我が法中に於て能く解脱を得。若し爾らざる者は。既に道人に非ず。又た白衣に非ず。名くる所なし。實智慧の者は。則ち是れ老病死海を渡る堅牢の船なり。亦た是れ無明黑暗の大明燈なり。一切病者の良藥なり。煩惱の樹を伐るの利斧なり。是の故に汝等。當に聞思修の慧を以て。而も自ら増益すべし。若し人智慧の照あれば。是れ肉眼なりと雖も。而も是れ明見の人なり。是を智慧と爲す。
汝等比丘。若し種種の戲論は。其の心則ち亂る。復た出家すと雖も。猶ほ未だ得脱せず。是の故に比丘當に急に亂心戲論を捨離すべし。若し汝寂

滅の樂を得んと欲せば。唯當に善く戲論の患を滅すべし。是を不戲論と名く。
汝等比丘。諸の功德に於て。常に當に一心に諸の放逸を捨ること。怨賊を離するが如くすべし。大悲世尊所説の利益は。皆已に究竟す。汝等但當に勤めて之を行すべし。若しは山間。若しは空澤の中に於ても。若しは樹下。閑處。靜室に在つても。所受の法を念じて忘失せしむること勿れ。常に當に自ら勉めて精進して之を修すべし。爲すこと無うして空しく死せば。後に悔あることを致さん。我は良醫の病を知て藥を説くが如し。服と不服とは醫の咎に非らず。又た善く導くものの。人を善道に導くが如し。之を聞いて行かざるは。導くものの過に非らず。

汝等比丘。若し苦等な四諦に於て疑ふ所ある者は。疾く之を問ふべし。疑を懐ひて決を求めざることを得ること無かれ。爾の時世尊。是くの如く三たび唱ひたまふに。人間ひたてまつる者なし。所以は何んとなれば。衆疑ひ爲きが故に。時に陀索樓駄。衆の心を觀察して。而も佛に白して言さく。世尊。月は熱からしむべく。日は冷かならしむべくとも。佛の説きたまふ四諦は。異ならしむべからず。佛の説きたまふ苦諦は實に苦なり。樂ならしむべからず。集は眞に是れ因なり。更に異因なし。苦若し滅すれば即ち是れ因滅す。因滅するが故に果滅す。滅苦の道は實に是れ眞道なり。更に餘道なし。世尊。是の諸の比丘。四諦の中に於て決定して疑ひ無し。此の衆中に於て若し所作未だ

辨せざる者あらば。佛の滅度を見て當に悲感あるべし。若し初めて法に入る者あれば。佛の所説を聞いて即ち皆得度す。譬へば夜電光を見て。即ち道を見ることが得るが如し。若し所作已辨じ。已に苦海を度る者は但是の念を作すべし。世尊の滅度一に何ぞ疾なる哉と。阿索樓駄。此の語を説いて。衆中皆悉く四聖諦の義を了達すと雖も。世尊此の諸の大衆をして皆堅固なるを得せしめんと欲して。大悲心を以て復た衆の爲めに説きたまふ。汝等比丘。悲惱を懐くこと勿れ。若し我れ世に住すること一劫するとも。會ふものは亦た當に滅すべし。會うて而も離れざることは終に得べからず。自利利人の法は皆具足す。若し我れ久しく住するとも更に所益なけむ。應

に度すべき者は。若しは天上人間皆悉く已に度す。其の未だ度せざる者には。皆亦已に得座の因縁を作す。自己今後。我が諸の弟子。展轉して之を行せば。則ち是れ如來の法身常に在して而も滅せざるなり。是の故に當に知るべし。世は皆無常なり。會ふものは必らず離るることあり。憂惱を懐くこと勿れ。世相是くの如し。當に勤めて精進して早く解脱を求め。智慧の明を以て諸の癡暗を滅すべし。世は實に危脆なり。牢強なる者なし。我れ今滅を得ること悪病を除くが如し。此れは是れ捨つべき罪惡のものなり。假に名けて身と爲す。老病生死の大海に没在せり。何ぞ智者は之れを除滅することを得ること。怨賊を殺すが如くにして。而も歡喜せざること有らんや。

汝等比丘。常に當に一心に出道を勤求すべし。一切世間の動不動の法は。皆是れ敗壞不安の相なり。汝等且く止みね。復た語いふこと得ること勿れ。時將に過ぎなんと欲す。我れ滅度せんと欲す。是れ我が最後の教誨する所なり。

消災妙吉祥陀羅尼(畢)

吒	羅	曩
扇	盃	謨
底	羅	三
迦	入	滿
	嚩	哆
	羅	
室	底	母
哩	瑟	駄
曳	吒	喃
	底	阿
娑	瑟	盃
嚩	吒	囉
訶		底
	入	賀
	嚩	多
	入	舍
	嚩	娑
	羅	曩
	盃	喃
娑	羅	但
發	入	姪
吒	嚩	他
娑		
發		

○消災妙吉祥陀羅尼

(消災咒)

大悲心陀羅尼(畢)

娑	無	那	訶
婆	喝	囉	者
訶	囉	謹	吉
	怛	墀	囉
悉	那	伽	阿
殿	哆	囉	悉
都	囉	耶	陀
漫	夜		夜
多	耶		
囉	南	娑	娑
跋	無	婆	婆
陀	阿	訶	訶
耶	唎	摩	波
	哪	婆	哆
娑		利	摩
婆	娑	勝	羯
訶	盧	羯	悉
	吉	羅	陀
	帝	耶	夜
	爍	娑	娑
	囉	婆	婆
	夜	訶	訶
		南	

馱野尾冒馱野三滿多跋里鉢弟薩縛但他藥多紇哩那
 沒地野沒地野尾沒地野胃馱耶胃馱耶尾胃
 三麼濕縛娑琰觀薩縛但他藥多三麼濕囉娑地瑟恥帝
 跋哩尾鉢弟薩囉識底跋里鉢弟薩囉但他藥多室者銘
 羅葉陸縛曰覽娑囉觀摩麼設哩覽薩縛薩但縛難左迦野
 野娑摩落娑摩羅薩囉沒馱地瑟恥多鉢弟縛曰哩囉曰
 跋哩鉢弟尾沙普吒沒地鉢弟若野若野尾惹野尾惹
 三摩野地瑟恥帝摩拈摩拈摩賀摩拈但闍多部跋里致
 幡野納哩藥底跋哩尾鉢弟鉢羅底額鞞羅跋野阿欲鉢帝
 賀母捺哩縛曰羅迦野僧賀多曩尾鉢弟薩縛縛羅娜

羅拈薩縛但他誡多紇哩娜野地瑟吒曩地瑟恥多摩
 散祖爾帝薩縛但他誡多縛路迦額娑吒幡羅弭跋里布
 誡曩尾鉢弟隴瑟拈灑尾若野尾鉢弟娑賀娑羅囉濕名
 羅跋乃阿賀羅阿賀羅阿臾散馱羅拈成馱野成馱野
 誅左都捨素誡多縛羅縛左曩阿密唎多鼻曬罽摩賀曼但
 跋囉娑娑頗羅拏誡底誡賀曩娑婆縛尾鉢弟阿鼻
 波誡縛帝但爾也他唵尾成馱野尾成馱野婆麼娑麼三滿
 曩謨婆誡縛帝但賴路枳也鉢羅底尾始鉢吒野波馱野
 佛頂尊勝陀羅尼

佛頂尊勝陀羅尼

野。地瑟陀囊。地瑟恥多。摩賀母捺哩娑縛賀。

佛頂尊勝陀羅尼(畢)

○甘露門

△奉請三寶 (△印ある題號は讀まざる場合多し)

南無十方佛。南無十方方法。南無十方僧。南無本師釋迦牟尼佛。南無大慈大悲救苦觀世音菩薩。南無啓教阿難尊者。

△招請發願

是諸衆等。(または佛子某)

發心して一器の淨食を奉持して。普く十方。窮盡虛空。周遍法界。微塵刹中。所有國土の一切の餓鬼に施す。先亡久遠。山川地主。乃至曠野の諸鬼神等。請ふ來つて此に集れ。我今悲愍して。普く汝に食を施す。願くは汝

各各。我此食を受けて。轉じ持て。盡虚空界の諸佛及聖。一切の有情に供養して。汝と有情と。普く皆飽滿せむことを。亦願くは汝が身。此の咒食に乗して。苦を離れて解脱し。天に生じて樂を受け。十方の淨土も。意に隨て遊往し。菩提心を發し。菩提道を行じ。當來に作佛して。永く退轉なく。前きに道を得る者は。誓て相度脱せんことを。又願くは汝等。晝夜恒常に。我を擁護して。我所願を滿せんことを。願くは此食を施す。所生の功德。普く以て法界の有情に廻施して。諸の有情と。平等共有ならん。諸の有情と共に。同く此福を以て。盡く將て眞如法界。無上菩提。一切智智に回向して。願くは速に成佛して。餘果を招くこと勿らむ。法界の含識。願くは此法に乗じて。疾く成佛することを得ん。

△雲集鬼神招請陀羅尼

曩謨步布哩迦哩多哩。怛他藥多也。

△破地獄門開咽喉陀羅尼

唵步布帝哩迦多哩。怛他藥多也。

△無量威德自在光明加持飲食陀羅尼

曩莫薩轉。怛佉藥多。轉嚕吉帝唵。三婆羅。三婆羅吽。

△蒙甘露法味陀羅尼

曩莫。蘇嚕頗也。怛佉藥多也。怛儺也。佉嚕。蘇嚕。蘇嚕。鉢羅。蘇嚕。鉢羅。蘇嚕。娑轉賀。

△毘盧舍那一字心水輪觀陀羅尼

曩莫三滿多沒馱南鍍。

△五如來寶號招請陀羅尼

南無多寶如來。曩謨薄伽筏帝鉢囉步多囉怛曩也。怛他藥多也。

除憊貪業福智圓滿。

南無妙色身如來。曩謨薄伽筏帝蘇嚕波耶怛佉藥多也。破醜。

陋形圓滿相好。

南無甘露王如來。曩謨婆伽筏帝阿蜜栗帝囉惹耶怛他藥他也。

灌法身心令受快樂。

南無廣博身如來。曩謨婆伽筏帝尾布邏藥怛羅耶怛佉藥多也。

咽喉廣大飲食充飽。

南無離怖畏如來。曩謨婆伽筏帝阿婆演迦羅耶怛佉藥多耶。

恐怖悉除離餓鬼趣。

△發菩提心陀羅尼

唵。胃地。即多。母怛。波。那野。迷。

△授菩薩三摩耶戒陀羅尼

唵。三昧耶。薩怛鍍。

△大寶樓閣善住秘密根本陀羅尼

曩莫。薩嚩。怛他。藥多。南。唵。尾。補囉。藥。陸。麼。拏。鉢。囉。陛。怛。佉。多。爾。捺。捨。寧。摩。拏。麼。拏。蘇。鉢。囉。陛。尾。麼。黎。娑。藥。囉。儼。鼻。嚩。吽。吽。入。嚩。囉。入。嚩。囉。沒。馱。尾。盧。枳。帝。廣。晒。夜。地。瑟。恥。多。藥。陸。娑。縛。訶。唵。麼。拏。嚩。日。哩。吽。

唵麼拈駄哩。吽泮吒。

△諸佛光明真言灌頂陀羅尼

唵阿暮伽。癡嚕者。娜摩訶畝捺囉。麼拈鉢頭麼。入縛囉。跛囉。鞞利。野斛。

△撥遣解脫陀羅尼 (多くはこの咒を讀ますして直ちに回向に移る)

唵囉曰囉。目乞灑穆。

△回向

以此修行衆善根。報答父母劬勞德。存者福樂壽無窮。亡者離苦生安養。四恩三有諸含識。三途八難苦衆生。俱蒙悔過洗瑕疵。盡出輪回生淨土。

願以此功德。普及於一切。我等與衆生。皆共成佛道。十方三世一切佛。諸尊菩薩摩訶薩。摩訶般若波羅蜜。

甘露門 (畢)

○準提讚曰（具さには、龍樹菩薩讚、準提大明陀羅尼と讀むべし）

準提功德聚。寂靜にして心常に誦すれば。一切諸の大難。能く是の人を
侵すこと無し。天上及び人間。福を受ること佛の如く等しし。此の如意珠に
遇はい。定むで無等等を得ん。
若し我が誓願大悲の裡。一人として二世の願を成せずんば。我れ虚妄罪過
の裏に墮して。本覺に歸らず大悲を捨てん。
曩謨颯多南。三藐三沒駄。俱胝南。怛徧也他。唵。者禮主
禮。準提娑婆訶。

祖訓類

○修證義（曹洞教會修證義）

第一章 總序（學經の際は大乗修證義總序乃至行持報恩と學すべし）

生を明らめ死を明らむるは。佛家一大事の因縁なり。生死の中に佛あれば
生死なし。但生死即ち涅槃と心得て。生死として厭ふべきもなく。涅槃と
して欣ふべきもなし。是時初めて生死を離るゝ分あり。唯一大事因縁と究
盡すべし。人身得ること難し。佛法値ふこと稀れなり。今我等宿善の助く
るに依りて。已に受け難き人身を受けたるのみに非ず。遇ひ難き佛法に値

ひ奉れり。生死の中の善生。最勝の生なるべし。最勝の善身を徒らにして。露命を無常の風に任すること勿れ。無常憑み難し。知らず露命いかなる道の草にか落ちん。身已に私に非ず。命は光陰に移されて。暫くも停め難し。紅顔いづくへか去りにし。尋ねんとするに蹤跡なし。熟觀する所に。往事の再び逢ふべからざる多し。無常忽ちに到るときは。國王大臣親暱從僕妻子珍寶たすくる無し。唯獨り黄泉に趣くのみなり。己れに隨ひ行くは。唯是れ善惡業等のみなり。今の世に因果を知らず。業報を明らめず。三世を知らず善惡を辨まへざる邪見の黨侶には群すべからず。大凡因果の道理歷然として私なし。造惡の者は墮ち。修善の者は陞る。毫釐も忒はざるなり。若し因果亡じて虚しからんが如きは。諸佛の出世あるべからず。祖師

の西來あるべからず。善惡の報に三時あり。一者順現報受。二者順次生受。三者順後次受。これを三時といふ。佛祖の道を修習するには。其最初より斯三時の業報の理を倣ひ驗らむるなり。爾あらざれば。多く錯りて邪見に墮つるなり。但だ邪見に墮つるのみに非ず。惡道に墮ちて長時の苦を受く。當に知るべし。今生の我身二つ無し三つ無し。徒らに邪見に墮ちて。虚く惡業を感得せん。惜からざらめや。惡を造りながら。惡に非ずと思ひ。惡の報ある可からずと邪思惟するに依りて。惡の報を感得せざるに非ず。

第二章 懺悔滅罪

佛祖憐みの餘り。廣大の慈門を開き置けり。是れ一切衆生を證入せしめん

が爲めなり。人天誰か入らざらん。彼の三時の悪業報。必ず感ずべしと雖も。懺悔するが如きは。重きを轉じて輕受せしむ。又滅罪清淨ならしむるなり。然れば誠心を専らにして前佛に懺悔すべし。恚麼するとき。前佛懺悔の功德力。我を拯ひて清淨ならしむ。此功德能く無礙の淨信精進を生長せしむるなり。淨信一現するとき。自他同く轉せらるゝなり。其利益普ねく情非情に蒙ぶらしむ。其大旨は。願くは我れ設ひ過去の悪業多し重なりて。障道の因縁ありとも。佛道に因りて得道せりし諸佛諸祖。我を愍みて業累を解脱せしめ。學道障り無からしめ。其功德法門。普ねく無盡法界に充滿彌綸せられん哀みを我に分布すべし。佛祖の往昔は吾等なり。吾等が當來は佛祖ならん。我昔所造諸惡業。皆由無始貪瞋癡。從身口意之

所生。一切我今皆懺悔。是の如く懺悔すれば。必ず佛祖の冥助あるなり。心念身儀發露白佛すべし。發露の力。罪根をして銷殞せしむるなり。

第三章 受戒入位

次には深く佛法僧の三寶を敬ひ奉るべし。生を易へ身を易へても。三寶を供養し敬ひ奉らんことを願ふべし。西天東土。佛祖正傳する所は。恭敬佛法僧なり。若し薄福少徳の衆生は。三寶の名字猶ほ聞き奉らざるなり。何に況や歸依し奉ることを得んや。徒らに所逼を怖れて。山神鬼神等に歸依し。或は外道の制多に歸依すること勿れ。彼は其歸依に因りて。衆苦を解脱すること無し。早く佛法僧の三寶に歸依し奉りて。衆苦を解脱するのみに非ず。菩提を成就すべし。其歸依三寶とは。正に淨信を専らにして。

或は如來現在世にもあれ。或は如來滅後にもあれ。合掌し低頭して。口に唱へて云く。南無歸依佛。南無歸依法。南無歸依僧。佛は是れ大師なるが故に歸依す。法は良藥なるが故に歸依す。僧は勝友なるが故に歸依す。佛弟子となること必ず三歸に依る。何れの戒を受くるも。必ず三歸を受けて。其後諸戒を受くるなり。然れば則ち三歸に依りて得戒あるなり。此歸依佛法僧の功德。必ず感應道交するとき成就するなり。設ひ天上人間地獄鬼畜なりと雖も。感應道交すれば。必ず歸依し奉るなり。已に歸依し奉るが如きは。生生世世在在處處に增長し。必ず積功累徳し。阿耨多羅三藐三菩提を成就するなり。知るべし。三歸の功德其れ最尊最上甚深不可思議なりといふこと。世尊已に證明します。衆生當に信受すべし。次に應に

三聚淨戒を受け奉るべし。第一攝律儀戒。第二攝善法戒。第三攝衆生戒なり。次には應に十重禁戒を受け奉るべし。第一不殺生戒。第二不偷盜戒。第三不邪淫戒。第四不妄語戒。第五不酤酒戒。第六不說過戒。第七不自讚毀他戒。第八不慳法財戒。第九不瞋恚戒。第十不謗三寶戒なり。上來三歸。三聚淨戒。十重禁戒。是れ諸佛の受持したまふ所なり。受戒するが如きは。三世の諸佛の所證なる阿耨多羅三藐三菩提金剛不壞の佛果を證するなり。誰の智人か欣求せざらん。世尊明らかに一切衆生の爲に示します。衆生佛戒を受ければ。即ち諸佛の位に入る。位大覺に同うし已る。眞に是れ諸佛の子なりと。諸佛の常に此中に住持たる。各々の方面に知覺を遺さず。群生の長へに此中に使用する。各々の和覺に方面露れず。是時十方法界

の土地草木。牆壁瓦礫。皆佛事を作すを以て。其起す所の風水の利益に預る輩。皆甚妙不可思議の佛化に冥資せられて。親き悟を顯はす。是を無爲の功德とす。是を無作の功德とす。是れ發菩提心なり。

第四章 發願利生

菩提心を發すといふは。己れ未だ度らざる前に。一切衆生を度さんと發願し營むなり。設ひ在家にもあれ。設ひ出家にもあれ。或は天上にもあれ。或は人間にもあれ。苦にありといふとも。樂にありといふとも。早く未得度先度佗の心を發すべし。其形陋しといふとも。此心を發せば。已に一切衆生の導師なり。設ひ七歳の女流なりとも。即ち四衆の導師なり。衆生の慈父なり。男女を論すること勿れ。此れ佛道極妙の法則なり。『若し菩提

心を發して後。六趣四生に輪轉すと雖も。其輪轉の因縁。皆菩提の行願となるなり。然れば從來の光陰は設ひ空く過すといふとも。今生の未だ過ぎざる際に。急ぎて發願すべし。設ひ佛に成るべき功德熟して圓滿すべしといふとも。尙ほ廻らして衆生の成佛得道に回向するなり。或は無量劫行ひて。衆生を先に度して。自からは終に佛に成らず。但し衆生を度し。衆生を利益するもあり。』衆生を利益すといふは。四枚の般若あり。一者布施。二者愛語。三者利行。四者同事。是れ則ち薩埵の行願なり。其布施といふは貪らざるなり。我物に非ざれども。布施を障へざる道理あり。其物の輕きを嫌はず。其功の實なるべきなり。然れば則ち一句一偈の法をも布施すべし。此生佗生の善種となる。一錢一草の財をも布施すべし。此生佗世

の善根を兆す。法も財なるべし。財も法なるべし。但彼が報謝を貪らず。自からが力を頽つなり。舟を置き橋を渡すも。布施の檀度なり。治生産業固より布施に非ざること無し。愛語といふは。衆生を見るに。先づ慈愛の心を發し。顧愛の言語を施すなり。慈念衆生。猶如赤子の懐ひを貯へて言語するは愛語なり。徳あるは讚むべし。徳なきは憐むべし。怨敵を降伏し。君子を和睦ならしむること。愛語を根本とするなり。面ひて愛語を聞くは。面を喜ばしめ心を樂しくす。面はずして愛語を聞くは。肝に銘じ魂に銘す。愛語能く廻天の力あることを學すべきなり。利行といふは。貴賤の衆生に於きて。利益の善巧を廻らすなり。窮龜を見。病雀を見しとき。彼が報謝を求めず。唯單に利行に催さるるなり。愚人謂はくは。利他を先

とせば。自からが利省れぬべしと。爾には非ざるなり。利行は一法なり。普く自他を利するなり。『同事といふは不違なり。自にも不違なり。他にも不違なり。』譬へば人間の如來は人間に同せるが如し。他をして自に同せしめて。後に自をして他に同せしむる道理あるべし。自他は時に隨ふて無窮なり。海の水を辭せざるは同事なり。是故に能く水聚りて海となるなり。『大凡菩提心の行願には。是の如くの道理。靜かに思惟すべし。卒爾にすること勿れ。濟度攝受に一切衆生皆化を被ぶらん功德を禮拜恭敬すべし。』

第五章 行持報恩

此發菩提心。多くは南閻浮の人身に發心すべきなり。今是の如くの因縁あり。願生此沙婆國土し來れり。見釋迦牟尼佛を喜ばざらんや。『靜かに憶

ふべし。正法世に流布せざらん時は。身命を正法の爲に抛捨せんことを願ふとも値ふべからず。正法に逢ふ今日の吾等を願ふべし。見ずや佛の言はく。無上菩提を演説する師に値はんには。種姓を觀すること莫れ。容顏を見ること莫れ。非を嫌ふこと莫れ。行ひを考ふること莫れ。但般若を尊重するが故に。日日三時に禮拜し恭敬して。更に患惱の心を生せしむること莫れと。今の見佛聞法は。佛祖面目の行持より來れる恩慈なり。佛祖若し單傳せずば。奈何にしてか今日に至らん。一句の恩尙ほ報謝すべし。一法の恩尙ほ報謝すべし。況や正法眼藏無上大法の大恩。これを報謝せざらんや。病雀尙ほ恩を忘れず。三府の環能く報謝あり。窮龜尙ほ恩を忘れず。餘不の印能く報謝あり。畜類尙ほ恩を報ず。人類争か恩を知らざらん。其

報謝は。餘外の法は中るべからず。唯當に日日の行持。其報謝の正道なるべし。謂ゆるの道理は。日日の生命を等閑にせず。私に費さざらんと行持するなり。『光陰は矢よりも迅かなり。身命は露よりも脆し。何れの善巧方便ありてか。過ぎにし一日を復び還し得たる。徒らに百歳生けらんは。恨むべき日月なり。悲むべき形骸なり。設ひ百歳の日月は。聲色の奴婢と馳走すとも。其中一日の行持を行取せば。一生の百歳を行取するのみに非ず。百歳の侘生をも度取すべきなり。此一日の身命は尊ぶべき身命なり。貴ふべき形骸なり。此行持あらん身心自からも愛すべし。自からも敬ふべし。我等が行持に依りて。諸佛の行持現成し。諸佛の大道通達するなり。然あれば則ち一日の行持是れ諸佛の種子なり。諸佛の行持なり。』謂ゆる諸佛と

は。釋迦牟尼佛なり。釋迦牟尼佛是れ即心是佛なり。過去現在未來の諸佛。共に佛と成る時は。必ず釋迦牟尼佛と成るなり。是れ即心是佛なり。即心是佛といふは誰といふぞと。審細に參究すべし。正に佛恩を報ずるにてあらん。

修證義 (畢)

○參 同 契 (和譯)

竺士大仙の心。東西密に相附す。人根に利鈍あり。道に南北の祖なし。靈源明に皎潔たり。支派暗に流注す。事を執するも元これ迷ひ。理に契ふも亦悟にあらず。門門一切の境。回互と不回互と。回して更に相ひ渉る。しからざれば位によつて住す。色もと質像を殊にし。聲もと樂苦を異にす。暗は上中の言に合ひ。明は清濁の句を分つ。四大の性おのづから復す。子の其の母を得るがごとし。火は熱し風は動搖。水は溼ひ地は堅固。眼は色耳は音聲。鼻は香舌は鹹酢。しかも一一の法において。根によつて葉分布す。本末すべからく宗に歸すべし。尊卑其の語をもちふ。明中に當つて暗

あり。暗相をもつて遇ふことなかれ。暗中に當つて明あり。明相をもつて
観ることなかれ。明暗各相ひ對して。比するに前後の歩のごとし。萬物
をのづから功あり。當に用と處を言ふべし。事存すれば函蓋合し。理應
すれば箭鋒拄ふ。言を承てはすべからく宗を會すべし。みづから規矩を立
することなかれ。觸目道を會せずんば。足を運ぶもいづくんぞ路をしらん。
歩を進むれば近遠にあらず。迷ふて山河の固を隔つ。謹しんで參立の人に
白す。光陰虚しく度ることなかれ。

參同契和譯(畢)

○寶鏡三昧 (和譯)

如是の法。佛祖密に附す。汝今これを得たり。宜く能く保護すべし。銀盃
に雪を盛り。明月に鷺を藏す。類して齊からず。混するるときんば處を知る。
意言に在ざれば。來機亦赴く。動すれば窠臼を成し。差へば顧佇に落つ。
背觸ともに非なり。大火聚のごとし。但文彩に形せば。即ち染汚に屬す。
夜半正明。天曉不露。物のために則となる。用ひて諸苦を抜く。有爲にあらず
すと雖ども。是れ語無きにあらず。寶鏡に臨んで。形影相ひ觀るがごとし。
汝これ渠にあらず。渠正に是汝。世の嬰兒の。五相完具するが如し。不去
不來。不起不住。婆々和々。有句無句。終に物を得ず。語いまだ正からざ

るがゆるるに。重離六爻。偏正回互。疊んで三となり。變じ盡きて五となる。莖艸の味のごとく。金剛の杵のごとし。正中妙挾。敲唱雙び擧ぐ。宗に通じ途に通ず。挾帶挾路。錯然なるときんば吉なり。犯忤すべからず。天真にして妙なり。迷悟に屬せず。因縁時節。寂然として照著す。細には無間に入り。大には方所を絶す。毫忽の差。律呂に應せず。今頓漸あり。宗趣を立するによつて。宗趣分る。即ち是規矩なり。宗通じ趣極るも。眞常流注。外寂に内搖くは。繋る駒伏せる鼠。先聖これを悲んで。法の檀度となる。其の顛倒にしたがつて。緇をもつて素となす。顛倒想滅すれば。盲心みづから許す。古轍に合はんと要せば。請ふ前古を觀せよ。佛道を成ずるに垂として。十劫樹を觀ず。虎の缺たるが如く。馬の馬の如し。下劣あ

るをもつて。寶几珍御。驚異あるをもつて。驚奴白牯。羿は巧力をもつて。射て百歩に中つ。箭鋒のひ値ふ。巧力なんぞ預らん。木人方に歌ひ。石女起つて舞ふ。情識の到るにあらず。むしろ思慮を容れんや。臣は君に奉し。子は父に順ず。順せざれば孝にあらず。奉せざれば輔にあらず。潛行密用は。愚のごとく魯のごとく。只能く相續するを。主中の主と名く。

寶鏡三昧和譯 (畢)

○信心銘 (和譯)

至道無難。唯嫌揀擇。但憎愛莫れば。洞然として明白なり。毫釐も差有れば。天地懸に隔る。現前を得んと欲せば。順逆を存すること莫れ。違順相争ふ。是を心病と爲す。立旨を識らざれば。徒に念靜に勞す。圓なること大虚に同し。缺ること無く餘ること無し。良に取捨に由る。所以に不如此なり。有縁を逐ふこと莫れ。空忍に住まること勿れ。一種平懷なれば。泯然として自から盡く。動を止めて止に歸すれば。止更に彌よ動す。唯兩邊に滯らば。寧ぞ一種を知らむ。一種通せざれば。兩處に功を失す。有を遣れば有を没し。空に隨へば空に背く。多言多慮。轉た相應せず。絶言絶慮。

處として通せずといふこと無し。根に歸すれば旨を得。照に隨へば宗を失ふ。須臾も返照すれば。前空に勝却す。前空の轉變は。皆妄見に由る。眞を求むることを用ひず。唯須らく見を息むべし。二見に住せず。慎で追尋すること勿れ。纔に是非あれば。紛然として心を失す。一は一に由て有り。一も亦守ること莫れ。一心生ぜざれば。萬法皆なし。咎無ければ法無し。生ぜざれば心ならず。能は境に隨て滅し。境は能を逐うて沈む。境は能に由て境たり。能は境に由て能たり。兩段を知らんと欲せば。元是れ一空。一空は兩に同く。齊しく萬象を含む。精粗を見ず。寧ぞ偏黨あらんや。大道體寛にして。難無く易無し。小見は狐疑す。轉た急なれば轉た遅し。之を執すれば度を失して。必ず邪路に入る。之を放ては自然なり。體に去住

無し。性に任ずれば道に合し。逍遙として惱を絶す。繫念は眞に乖く。昏沈は不好なり。不好なれば神を勞す。何ぞ疎親することを用ひん。一乘に趣かんと欲せば。六塵を惡むこと勿れ。六塵惡まざれば。遷て正覺に同し。智者は無爲なり。愚人は自縛す。法に異法なし。妄りに自から愛著す。心を持つて心を用ふ。豈大なる錯りに非ざらんや。迷へは寂亂を生じ。悟れば好惡なし。一切の二邊。妄りに自から斟酌す。夢幻空華。何ぞ把捉に勞せん。得失是非。一時に放却せよ。眼若し睡らざれば。諸夢自から除く。心若し異ならざれば。萬法一如なり。一如體立なり。兀爾として縁を妄す。萬法齊しく觀すれば。歸復自然なり。其の所以を混す。方比すべからず。動を止むるに動なく。止を動するに止なし。兩既に成らず。一何ぞ爾るこ

と有らん。究竟窮極。軌則を存せず。契心平等なれば。所作俱に息む。狐疑淨盡して。正信調直なり。一切留らず。記憶す可きこと無し。虛明自照して。心力を勞せず。非思量の處。識情測り難し。眞如法界には。他無く自無し。急に相應せんと要せば。唯不二と言ふ。不二なれば皆同じ。包容せずと言ふこと無し。十方の智者。皆此宗に入る。宗は促延に非ず。一念萬年。在と不在と無く。十方目前。極小は大に同く。境界を忘絶す。極大は小に同く。邊表を見ず。有即ち是無。無即ち是有。若是くの如くならずんば。必ず守ることを須るざれ。一即一切。一切即一。但能く是くの如くならば。何ぞ不畢を慮らん。信心不二。不二信心。言語道斷。去來今に非ず。信心銘和譯 (畢)

○證道歌 (和譯)

君見すや。絶學無爲の閒道人。妄想を除かず眞を求めず。無明の實性即佛性。幻化の空身即法身。法身覺了すれば無一物。本源自性天真佛。五陰の浮雲は空去來。三毒の水泡は虚出沒。實相を證すれば人法無し。刹那に滅却す阿鼻の業。若し妄語を將て衆生を誑さば。自から拔舌を招くこと塵沙劫ならん。頓に如來禪を覺了すれば。六度萬行體中に圓なり。夢裡明明として六趣有り。覺めて後空空として大千も無し。罪福も無く損益も無し。寂滅性中間覺すること莫れ。比來の塵鏡未だ曾て磨せず。今日分明に須らく剖折すべし。誰か無念誰か無生。若し實に無生ならば不生も無し。機關

木人を喚取して問へ。佛を求め功を施さば早晚か成せん。四大を放つて把捉すること莫れ。寂滅性中隨つて飲啄せよ。諸行は無常にして一切空なり。即ち是れ如來の大圓覺。決定の説は眞僧を表す。人有り肯はずんば情に任せて徵せよ。直に根源を截るは佛の印する所。葉を摘み枝を尋ぬるは我れ能はず。摩尼珠人識らず。如來藏裡に親しく收得す。六般の神用空不空。一顆の圓光色非色。五眼を淨ふし五力を得。唯證して乃ち知る測る可きこと難し。鏡裡に形を見る見こと難からず。水中に月を捉ふ争か拈得せん。常に獨り行き常に獨り歩す。達者同じく遊ぶ涅槃の路。調べ古り神清ふして風自から高し。貌頼け骨剛ふして人顧みず。窮釋子口に貧と稱す。實に是れ身貧にして道貧ならず。貧なれば身常に縷褐を被す。道あれば心

に無價の珍を藏む。無價の珍は用ふれども盡ること無し。物を利し縁に應じて終に悵まず。三身四智體中に圓なり。八解六通心地に印す。上士は一切決して一切了す。中下は多聞なれども多く信せず。但自から中を懷うて垢衣を解け。誰か能く外に向つて精進に誇らん。他の謗するに従せ他の非するに任す。火を把て天を焼く徒に自ら疲る。我れ聞いて恰も甘露を飲むが如し。鎖融して頓に不思議に入る。悪言は是れ功德なりと觀すれば。此れ則ち吾が善知識と成る。訕謗に因つて怨親を起さざれば。何ぞ無生慈忍の力を表せん。宗も亦通じ説も亦通ず。定慧圓明にして空に滯らず。但我れ今獨り達了するのみに非ず。恒沙の諸佛體皆同し。獅子吼無畏の説。百獸之を聞いて皆腦裂す。香象奔波するも威を失却す。天龍寂に聽いて欣悅を

生ず。紅海に遊び山川を涉り。師を尋ぬ道を訪うて參禪を爲す。曹谿の路を認得してより。生死相關らざることを了知す。行も亦禪坐も亦禪。語默動靜體安然。縦ひ鋒刀に遇ふとも常に坦坦。假饒毒藥も亦閒閒。我が師然燈佛に見ゆることを得て。多劫曾て忍辱仙と爲る。幾回か生じ幾回か死す。生死悠悠として定止無し。頓悟無生を了じてより。諸の榮辱に於いて何ぞ憂喜せむ。深山に入り蘭若に住す。岑峯幽邃たり長松の下。優遊として靜坐す野僧が家。閑寂たる安居實に瀟洒。覺すれば了じて功を施さず。一切有爲の法と同じからず。住相の布施は生天の福。猶箭を仰いで虚空を射るが如し。勢力盡きぬれば箭還つて墮つ。來生の不如意を招き得たり。争でか似かん無爲實相の門。一超直入如來地なるに。但本を得て末を愁ふるこ

と莫れ。淨瑠璃に寶月を含むが如し。我今此の如意珠を解す。自利利他終に竭きず。江月照し松風吹く。永夜の清宵何の所爲ぞ。佛性の戒珠心地に印す。霧露雲霞體上の衣。降龍の鉢解虎の錫。兩鈷の金環鳴て歴歴。是れ形を標して虚しく事持するにあらず。如來の寶杖親しく蹤跡す。眞をも求めず妄をも斷せず。二法空にして無相なることを了知す。無相は空無く不空も無し。即ち是れ如來の眞實相。心鏡明かに鑑みて碍り無し。廓然として瑩徹して沙界に周し。萬象森羅影中に現す。一顆の圓光内外に非ず。豁達の空は因果を撥ふ。莽々蕩々として殃禍を招く。有を棄て空に著く病亦然り。還つて溺を避けて火に投ずるが如し。妄心を捨て眞理を取る。取捨の心巧偽と成る。學人了せずして修行を用ふ。眞成に賊を認めて將つて

子と爲す。法財を損じ功德を滅することは。斯の心意識に由らずといふことと莫し。是を以て禪門は心を了却す。頓に無上に入るは知見の力なり。大丈夫慧劍を乗る。般若の鋒金剛の焰。但能く外道の心を摧くのみに非ず。早く曾て天魔の膽を落却す。法雷を震ひ法鼓を撃ち。慈雲を布き甘露を洒ぐ。龍象の蹴踏潤ひ無邊。三乘五性皆醒悟す。雪山の肥膩更に雜りなし。純ら醍醐を出す我れ常に納む。一性圓に一切の性に通じ。一法徧く一切の法を含む。一月普く一切の水に現じ。一切の水月一月に攝す。諸佛の法身我が性に入り。我が性還つて如來と合す。一地に具足す一切地。色に非ず心に非らず行業に非らず。彈指に圓成す八萬の門。刹那に滅却す三祇劫。一切の數句は數句に非らず。吾が靈覺と何んぞ交渉せん。毀るべからず讚

ひべからず。體は虚空の若く涯岸なし。當處を離れずして常に湛然たり。覓むれば則ち知る君が見るべからざることを。取ることを得ず捨つることを得ず。不可得の中只麼に得たり。默の時説説の時默。大施門開いて壅塞なし。人あり我に何んの宗をか解すと問はひ。報じて道はん摩訶般若の力と。或は是或は非人識らず。逆行順行天も測ると莫し。吾早く曾て多劫を経て修す。是れ等閑に相ひ誑惑するにあらず。法幢を建て宗旨を立す。明々たる佛勅曹谿是れなり。第一迦葉首めて燈を傳ふ。二十八代西天の記。江海を経て此の土に入る。菩提達磨を初祖となす。六代の傳衣天下に聞ふ。後人道を得る何んぞ數を窮めん。眞をも立せず妄本空なり。有無俱に遣れば不空も空なり。二十の空門元著せず。一性の如來體自ら同じ。心は是れ

根法は是れ塵。兩種猶鏡上の痕の如し。痕垢盡く除いて光り始めて現す。心法雙べ亡して性則ち眞なり。嗟末法の惡時世。衆生薄福にして調制し難し。聖を去ると遠して邪見深し。魔強く法弱くして怨害多し。如來頓教の門を説くことを聞いて。滅除して死の如く碎かしめざることを恨む。作は心にあり殃は身にあり。怨訴して更に人を尤むることを須ひざれ。無間の業を招かざることを得んと欲せば。如來の正法輪を謗すること莫れ。旃檀林に雜樹なし。鬱密深沈として獅子のみ住す。境靜に林間にして獨り自ら遊ぶ。走獸飛禽皆遠く去る。獅子兒衆く後に隨ふ。三歳にして便ち能く大に哮吼す。若し是れ野干法王を逐ふならば。百千の妖怪も虚に口を開かん。圓頓の教は人情没し。疑ありて決せずんば直に須らく争ふべし。是れ山僧が人我を

逞たくましふするにあらず。修行しゆぎやう恐おそくは斷常だんじやうの坑きやうに墮たせん。非ひも非ひならず是せも是せならず。之これに差さふと毫釐さうりもすれば失しつするに千里せんり。是せなるときは龍女りうにょも頓どんに成佛じやうぶつし。非ひなるときは善星ぜんせうも生いきながら陷墜かんづるす。吾われ早年さうねんより來このかた學問がくもんを積つみ。亦また曾かつて疏せうを討たつね經論きやうろんを尋たづぬ。名相なうさうを分別ぶんべつして休きうするを知らず。海かいに入りて砂いさごを算かぞへて徒いたづらに自みづから困こんす。却かへつて如來にやらいに苦ねんごろに呵責かしかくせらる。他たの珍ちん寶ほうを數かぞへて何なんの益えきかあると。從來じゆらい踏躐たいだつとして虚みだりに行ぎやうするを覺おぼふ。多た年ねん枉まがて風塵ふうぢんの客かくとなる。種性しゆじやう邪じやなれば錯あやまつて知解ちげす。如來にやらい圓頓えんどんの制せいに達たつせず。二乘にじやうは精達しやうだつにして道心だうしんなく。外道げだうは聰明そうめいにして智慧ちゑなし。亦また愚癡ぐち亦また小せう騷がう。空拳くうけん指上しじやうに實解じつげを生しやうず。指ゆびを執しよして月つきとなす枉まがて功こうを施ほどこす。根境こんけう法中はうちゆう虚みだりに捏怪ねつかいす。一法いつぽうを見みざれば即すなはち如來にやらいなり。方まさに名なづけて觀自在くわんじざいと爲たすと

を得え。了れうすれば則すなはち業障ごうしやう本來ほんらい空くう。未いまだ了れうせされば還かへつて須すべらく宿債しゆくさいを償つぐなふべし。飢うゑて王膳わうぜんに逢あふとも喰くらふと能あたはずんば。病やんで醫王いわうに遇あふとも爭いかでか瘞いゆるとを得えん。欲よくにありて禪ぜんを行ぎやうするは知見ちけんの力ちからなり。火中くわちゆうに蓮れんを生しやうず終つひに壞こせず。勇施ゆうせ重じゆうを犯をかして無生むしやうを悟さとり。早時さうじ成佛ぶつじゆうして今いまにあり。獅子しし吼くひる無畏むゐの説せつ。深ふかく嗟なげく憍憍きやうきやうたる頑皮くわんぴ鞞たん。但たゞ犯重はんじゆうの菩提ぼだいを障さふるを知る。如來にやらいの秘訣ひけつを開ひらくとを見みず。二比丘にびくあり姪殺いんせつを犯おかす。波離はりの螢光けいこう罪結ざいけつを増ます。維摩ゐま大士だいし頓どんに疑うたがひを除のぞく。猶なほ赫日かくじつの霜雪さうせつを銷ようするが如ごとし。不思議ふしぎ解脫げだつの力ちから。妙用めうよう恒砂かうさ亦また極ごくりなし。四事しじの供養くやう敢あて勞らうを辭じせんや。萬兩まんにやうの黃金わうこんも亦また消得せうとくす。粉骨ふんこつ碎身さいしんも未いまだ酬むくゆるに足たらず。一句いっく了然れうぜんとして百億ひやくおくを超こふ。法中はうちゆうの王わう最もつとも高勝かうしやう。河沙がしやの如來にやらい同どうく共ともに證しやうす。我われ今いまこの如意珠にぎじゆを解げす。

之を信受するものは皆相應す。了々として見るに一物無し。亦人も無く亦佛も無し。大千沙界海中の漚。一切の賢聖は電の拂ふが如し。假使鐵輪頂上に旋るも。定慧圓明にして終に失せず。日は冷なるべく月は熱かるべくとも。衆魔も眞説を壞すると能はず。象駕崢嶸として謾に途に進む。誰か見る蟬螂の能く轍を拒むとを。大象兔徑に遊ばず。大悟小節に拘らず。管見を將つて蒼々を誘すると莫れ。未だ了せざれば吾今君が爲に決せん。

證道歌和譯(畢)

○普勸坐禪儀 (和譯)

原ぬるに夫れ道本圓通等か修證を假らん。宗乘自在何ぞ功夫を費さん。況んや全體遙かに塵埃を出づ。孰か拂拭の手段を信せん。大都そ當處を離れず豈に修行の脚頭を用ひるものならんや。然れども毫釐も差あれば天地懸に隔り違順纒かに起れば紛然として心を失す。直饌ひ會に誇り悟に豊かにして警地の智通を得。道を得心を明らめて衝天の志氣を擧し。入頭の邊量に逍遙すと離も。幾んど出身の活路を虧闕す。矧んや彼の祇園の生知たる。端坐六年の蹤跡見つべし。少林の心印を傳ふる。面壁九歳の聲名尙聞ふ。古聖既に然り今人蓋ぞ辨せざる。所以に須らく言を尋ね語を逐ふの解

行を休すべし。須らく回光返照の退歩を學すべし。身心自然に脱落して本來の面目現前せん。恁麼の事を得んと欲せば急に恁麼の事を務めよ。夫れ參禪は静室宜しく飲食節あり。諸縁を放捨し萬事を休息し。善惡を思はず是非を管すること莫れ。心意識の運轉を停め念想觀の測量を止めて作佛を圖ること莫れ。豈に坐臥に拘はらんや。尋常坐處には厚く坐物を敷き上に蒲團を用ふ。或は結跏趺坐。或は半跏趺坐。謂く。結跏趺坐は先づ右の足を以て左の股の上に安じ。左の足を右の股の上に安ず。半跏趺坐は但だ左の足を以て右の股を壓すなり。寛く衣帶を繫けて齊整ならしむべし。次に右の手を左の足の上に安じ。左の掌を右の掌の上に安じ。兩の大拇指面へて相挂ふ。乃ち正身端坐して左に側ち右に傾き前に躬り後に仰ぐこと

を得ざれ。耳と肩と對し鼻と臍と對せしめんことを要す。舌上の腭に掛けて唇齒相着け。目は須らく常に開くべし。鼻息微かに通じ身相既に調へて。欠氣一息し左右搖振し。兀兀として坐定して箇の不思議底を思量せよ。不思議底如何んが思量せん。非思量此れ乃ち坐禪の要術なり。謂はゆる坐禪は習禪には非ず。唯だ是れ安樂の法門なり。菩提を究盡するの修證なり。公案現成。羅籠未だ到らず。若し此の意を得ば龍の水を得るが如く。虎の山に靠るに似たり。當に知るべし正法自ら現前し。昏散先づ撲落すること。若し坐より立たば除除として身を動かし。安詳として起つべし。卒暴なるべからず。嘗て觀る超凡越聖坐脱立亡も此の力に一任すること。況んや復た指竿針鋸を拈するの轉機。拂拳捧喝を擧するの證契も。未

だ是れ思量分別の能く解する所にあらず。豈に神通修證の能く知る所とせ
 んや。聲色の外の威儀たるべし。那ぞ知見の前の軌則に非ざる者ならんや。
 然れば則ち上智下愚を論せず。利人鈍者を簡ぶこと莫れ。專一に功夫せば
 正に是れ辨道なり。修證自ら染汚せず。趣向更に是れ平常なる者なり。
 凡そ夫れ自界他方西天東地。等しく佛印を持し一ら宗風を擅にす。唯だ
 打坐を務めて兀地に礙えらる。萬別千差と謂ふと雖も祗管に參禪辨道すべ
 し。何ぞ自家の坐牀を抛却して。謾りに他國の塵境に去來せん。若し一步
 を錯れば當面に蹉過す。既に人身の機要を得たり。虚く光陰を度ること莫
 れ。佛道の要機を保任す。誰か浪りに石火を樂まん。加以。形質は草露の
 如く運命は電光に似たり。倏忽として便ち空じ須臾に即ち失す。冀くは其

れ參學の高流。久しく模象に習つて眞龍を恠むこと勿れ。直指端的の道に
 精進し。絶學無爲の人を尊貴し。佛佛の菩提に合沓し祖祖の三昧を嫡嗣せ
 よ。久しく恁麼なることを爲さば須く是れ恁麼なるべし。寶藏自ら開け
 て受用如意ならん。

普勸坐禪儀 (畢)

○坐禪箴 (和譯)

佛佛の要機。祖祖の機要。不思議にして現じ不回互にして成ず。不思議にして現す其の現。自ら親し。不回互にして成ず其の成。自ら證す。其の現。自ら親し曾て染汚なし。其の成。自ら證す曾て正偏なし。曾て染汚なきの親。其の親委すること無うして脱落す。曾て正偏なきの證。其の證圖ること無うして功夫す。水清ふして地に徹す。魚行て魚に似たり。空闊うして天に透る。鳥飛んで鳥の如し。

坐禪箴 (畢)

○承陽大師御和讃

歸命頂禮祖師菩薩 悟本大師の再来と 如淨禪師の夢にみへ 吾國洞家の
宗祖なり 村上天皇九世の孫 久我内大臣通親の 御三男にぞをはしける
母は攝政基房の 御息女にてましませり
時に虚空に聲ありて 大聖人としらせけり 正治二年に降誕し 眼に重瞳
ありしとぞ 四歳に李嶠が詩を詠し 八にて母の亡給ふ けむりに無情を
悟られつ 求法の誓願をはします
御伯父關白師家は 猶子となして重職を 續しめ給ん意にたがひ 十三歳
の春の夜に しのびて比叡の麓なる 舅良觀の室にいり 母君菩提のた

めにとて 遁世あるこそ有難し

建保卯月の九日に 公圓坐主の位に就て 得道戒壇とげ給ふ 御歳十五に

法性の 道理を論じ三井寺の 公胤僧正の指揮をうけ 榮西禪師に参せら

る 二祖明全を師とたのみ 精修に九歳を経給へり

廿四歳の春のころ 全師と共にはるかなる 宋土にわたり明州の 諸山の

風儀を伺はる 秋七月に天童の 無際禪師に相見し 法臘列位みだるゝを

寧宗帝に上奏し 終に戒次を糺さるゝ

寶慶元年仲の夏 如淨禪師に参見し 機縁にかなひ道を得て 室中相傳

了畢し 江西行脚におん杖の 龍頭と化して虎を追ふ 碧巖書寫の夜半に

は 白山権現助筆ある

韋駄將軍のすゝめにて 歸朝の纒解せらる 南海風波の難をさけ 肥後川

尻に着玉ひ たいにちに都の建仁に みとせを経給ひ深草の 閑居に吟ある

夜雨の聲 佛法御房と稱しける

天福元年四月には 興聖禪寺をひらかしめ 弘道十年にみち給ふ 波多野

義重進めにて 越前志比に下向あり 寛元二年に永平寺 建立あれば草も

木も。吉祥瑞をあらはせり

説法布薩のその時は 華ふり彩雲たなびけり 最明寺殿時頼は 請して戒

法請らるゝ 褒録奇進の命有と 固辭して使僧を罪せられ 床の地七尺捨

給ふ 御嵯峨の帝御紫衣を 賜ご身に觸ましまさず

正法眼藏涅槃心 九十五卷に止まりて 微恙にかゝらせ玉ふより 遺教經

を開示ある 王公親族請あれど 西の洞院高辻の 正念宅にぞ入玉ふ 今

宵の月の御詠には かんじで寝られやはする也 上皇醫官に勅せられ 診候とりぐありしかど 建長五年丑の秋 八月二

十八日に 妙法蓮華經庵と 御筆を染させ偈を殘し 御年五十有四にて

涅槃の寂土に入給ふ 御茶毘式は東山 赤築地にてぞ執行ある 舍利をわかちて越の山 承陽庵

にぞ納らる 其みなもとの谷深く すめるながれの末迄も たい安樂の法

もんを つとめて菩提を求よと 如來の正法正傳を 弘通まします大導師

願くは此功德を以て、普く一切に及ぼし、我等と衆生と、皆共に佛道を成

せんことを、

十方三世一切佛。諸尊菩薩摩訶薩。摩訶般若波羅密。(三拜)

承陽大師御和讚 (畢)

回向類

(回向の數は日分月分年分等牧擧に違あらず。)
詳しくは洞上行持規範に就て見るべし。

○朝課佛殿諷經 觀音經 大悲呪 三返

上來諷誦大乘妙典觀音普門品。大悲心陀羅尼。消災妙吉祥陀羅尼。所集功德。回向真如實際。莊嚴無上佛果菩提。祝獻護法諸天護法聖者。日本國內大小神祇。當山土地。護伽藍神。招寶七郎大權修利菩薩。合堂真宰。所冀皇圖鞏固。國土昇平。大小檀那福壽長久。十方施主災障消除。山門康寧。海衆安樂。法界含識同圓種智。

仰冀照鑑俯垂感應上來諷誦般若心經所集功德回向十方常住三寶果海無量賢聖十六大阿羅漢一切應供部類眷屬所冀三明六通回末法於正法五力八解導群生於無生山門之二輪常轉國土之三災永消

○同應供諷經

般若心經

○同祖堂諷經

參同契寶鏡三昧

仰冀真慈俯垂照鑑上來諷誦參同契寶鏡三昧所集殊勳奉為開山(磬を仰へ打ちて五十七佛を唱ふ)三國傳燈歷代祖師上酬慈蔭

○同開山堂諷經

大悲呪

仰冀真慈俯垂照鑑上來諷誦大悲心陀羅尼所集殊勳奉為開山某大和尚二世某大和尚已下歷代各大和尚上酬慈蔭(因資薦某大和尚某大和尚前住牌又ハ其寺ニ功勞増崇品位)

○同祠堂諷經

壽量品偈

仰冀三寶俯垂照鑑上來諷誦大乘妙典如來壽量品偈所集功德回向本朝人皇歷代天皇各各神儀當山亡僧伽等各各品位當寺開基已下檀那先亡結緣諸靈等當寺結緣祠堂檀那合山清衆六親眷屬七世父母法界含識同圓菩提

○竈公諷經

大悲呪

上來誦誦大悲心陀羅尼功德。回向當山竈公眞宰。所祈護法安人。

○日中諷經金剛經 尊勝陀羅尼

上來誦誦金剛般若波羅蜜經。佛頂尊勝陀羅尼。所集功德。回向眞如實際。十方三寶。三界萬靈。一切護法。日域神祇。所冀山門鎮靜。辨道安穩。超證佛果。利濟衆生。諸緣吉祥。

○晚課諷經大悲咒 甘露門

願以此功德。普及於一切。我等與衆生。皆共成佛道。

○二時行鉢念誦(中にある文は維那一人にて唱ふ)

佛生迦毘羅。成道摩揭陀。說法波羅奈。入滅拘絺羅。如來應量器。我

今得敷展願。共一切衆等。三輪空寂。

(仰惟三寶咸賜印知。仰憑尊衆念)

清淨法身毘盧舍那佛。圓滿報身盧遮那佛。千百億化身釋迦

牟尼佛。當來下生彌勒尊佛。十方三世一切諸佛。大乘妙法

蓮華經。大聖文殊師利菩薩。大乘普賢菩薩。大悲觀世音菩

薩。諸尊菩薩摩訶薩。摩訶般若波羅蜜。

粥時(粥有十利。饒益行人。果報無邊。究竟常樂。)

齋時(三德六味。施佛及僧。法界有情。普同供養。)

一計功多少。量彼來處。二付己德行。全缺應供。三防心離過。貪

等爲宗。四正事良藥。爲療形枯。五爲成道。故今受此食。

汝等鬼神衆。我今施汝供。此食遍十方。一切鬼神共。(この時出生し。撃

鉢して次の)

上分三寶。中分四恩。下及六道。皆同供養。一口爲斷一切惡。二口爲

修一切善。三口爲度諸衆生。皆共成佛道。(唱へ了つて鉢を取つて食す。食

了つて鉢を洗ひ次の)

我此洗鉢水。如天甘露味。施與鬼神衆。悉令得飽滿。唵摩休羅細娑

娑訶。

(處世界如虛空。如蓮華不着水。心清淨超於彼。稽首禮無上尊。)

○朔望祝聖 大悲呪(祝聖は凡て) 消災呪(是に準ず)

巍巍金相。堂堂覺王。三界獨尊。萬靈皆仰。山門每遇斯辰。謹集合山。清衆恭趨。大佛寶殿。誦大悲心陀羅尼。消災妙吉祥陀羅尼。所集鴻因。端爲祝延。

今上天皇聖壽萬安。

(金剛無量壽佛。仁王菩薩摩訶薩。摩訶般若波羅蜜) 同衆唱

○鎮守諷經 大悲呪

神功浩浩。聖德昭昭。凡有禱祈。必蒙感應。仰冀聖聰。俯垂照鑑。上來

誦大悲心陀羅尼。所集鴻福。回向

若シ特ニ神祠ニ詣シテ諷經スルナレバ(山門每遇斯辰謹集合山) 當山鎮守某神。當山土地護伽藍神。一切護

呪所集云云)ト唱フヘシ

山海衆蕭詣靈祠誦經

法諸天善神。增加威光。無量德海所祈。皇風永扇。佛日增輝。山門鎮靜。修道無難。國家安康。萬民豐富。

○本尊上供諷經 般若心經

上來諷誦般若心經功德。回向真如實際。莊嚴無上佛果菩提。伏願四恩總報。三有齊資。法界有情。同圓種智。

○檀家本尊上供回向 般若心經

上來諷誦般若心經功德。回向大恩教主本師釋迦牟尼佛。高祖佛性傳東國師承陽大師。太祖弘德圓明國師常濟大師。盡十方法界一切三寶。伏願四恩總報。三有齊資。法界有情。同圓種智。更冀家道

興隆。災障消除。諸緣吉祥。

○同年忌正當回向 經呪適宜

淨極光通達。寂照含虛空。却來觀世間。猶如夢中事。

仰冀三寶。俯垂照鑑。

山門本月。今日伏值。戒名忌之辰。虔備香華燈燭湯菓茶珍饈。以伸供養。恭請現前清衆。同音諷誦經咒。所集功德。資助覺靈。莊嚴報地。伏願處生死之流。驪珠獨耀於滄海。踞涅槃之岸。桂輪孤朗於碧天。普導世間。同登覺路。

○同先亡累代諷經回向 經呪適宜

仰冀三寶。俯垂照鑑。上來諷誦。所集功德。回向先亡。累代精靈。六親眷屬。七世父母。有緣無緣。三界萬靈。法界含識等。所冀曠劫無明。當下消滅。真空妙智。即得現前。頓了無生。速證佛果。

○在家喪法念誦回向

○入龕諷經回向 大悲咒

上來諷誦大悲心陀羅尼功德。回向新歸元某信女。所冀入棺之次。莊嚴報地。十方三世云云。

○龕前念誦

切以生死交謝。寒暑互遷。其來也電激長空。其去也波停大海。是日

即有新歸元某信女。生緣已盡。大命俄落。了諸行無常。以寂滅為樂。恭請現前清衆。謹誦諸聖洪名。所集鴻福。莊嚴覺路。仰憑清衆念。佛名了舍。利禮文。

○回向

上來念誦諷經功德。回向新歸元某信女。莊嚴報地。伏願神超淨域。業謝塵勞。蓮開上品之花。佛授一生之記。再勞清衆念。十方三世云云。

○舉棺念誦

欲舉靈柩。掩土之盛禮。仰憑清衆誦諸聖之洪名。用表攀幃。上資助覺路念。十方三世云云。

○山頭念誦

是日即有新歸元某信士。既隨緣而寂滅。乃依法而掩土埋百年虛弘之身。入一路涅槃之徑。仰憑清衆資助覺靈念茶毘焚十佛名。

○回向

上來稱揚聖號。資助覺靈。唯願慧鏡分輝。眞風散彩。苦揚園裡。開敷覺慧之華。法性海中。活動無垢之波。茶傾三奠。香爇一爐。奉送雲程。和南聖衆。悲呪或ハ大。

○送棺回向

上來念誦諷經功德。回向新歸元某信士女。茶毘ノ之次。莊嚴報地。十方三世云。

回向類(兼)

附記

○曹洞宗信者の心得

我が曹洞宗は高祖承陽大師永平道元禪師のお開きなされた宗旨には相違ありませんが、現に一萬四千の寺院、十萬の僧侶、百萬の信徒を有するまでに盛大になりましたのは實に太祖常濟大師瑩山紹瑾禪師のお力が多かつたと云ふことを忘れてはならぬのです。高祖承陽大師の御一代は前の御和讃で大體解つて居ますから此に一寸太祖常濟大師の御一代を申述べて置きます。常濟大師は文永五年十一月廿一日に越前多禰の郡司瓜生と云ふお家に

生れた方で、幼い時から佛法がお好で遂に永年寺の孤雲禪師と云ふ方に就て出家なされた。(孤雲様は高祖大師のお弟子です)。應て年頃になられると諸國行脚やら比叡山の御習學やら難行苦行二十年もなされて、御年三十歳の頃、加賀の大乗寺の御開山徹通禪師と申して孤雲禪師の御弟子に當るお方の許で遂にお悟を開きなされて、承陽大師から四代目の祖師となられたのです。で加賀の淨住寺、能登の永光寺等をお開きになつて、今は鶴見へ移轉した總持寺を能登の櫛比にお開きなされた時、後醍醐天皇様から十種の勅問が下つた。大師の奏答が帝の御意に叶ふたので紫衣を賜はり總持寺を日本曹洞の本山にお取立てになつた。そこで今日まで永平寺と總持寺と同格同列の大本山として續いて來たので、宗門では一口に兩本山と稱へ

て居ます。承陽大師、常濟大師といふ御稱號は共に明治天皇様の下し置かれた御謚號です。そこで我宗の御安心は、ごんなものかと申すと、前に掲げた「修證義」を拜讀すれば大體了解が出來ますが、如何にも高遠幽玄の宗旨だから解つたやうでも却々解らないのです。今極々の大要を摘んで申せば次のやうになるのです。煩惱業障で汚れたお互も心を籠めて前佛に發露懺悔すれば必ず清淨な人間となることが出来る。其の清淨な身心に佛戒とて十六條の戒法を受けたならば、直ちに壇上の佛や古來の祖師方と寸分違はぬ佛と成ることが出来る。それも其筈、お互は無始劫來とて久遠の昔から此の身此の儘の佛であ

つたのに、欲垢煩惱の錆に汚れて端なく凡夫と云ふ嫌な境界に成り下つたのだ。憐れ無垢の黄金も垢が附いては光を失ふと同じ事。さて其垢を落すには相當の手數がかゝるやうに、お互も相當の手順を履まねば元々の佛の光は出ない。それなら廿年三十年の難行苦行と云ふやうな大修行が必要かと云ふに、何ぞ知らん、佛祖の廣大な慈恩によつて、懺悔受戒といふ僅かな手順で我れと我が大光明を顯はす道が教へられてあるのです。「修證義」の前三章は實にこゝの道理をお示し下されたものです。

處で、元々佛であつたお互の大光明は、どんな具合に發現するのかと申せば、布施愛語利行同事の四攝法ともなり、又お互の日々の運作轉動其儘が佛祖の行持ともなるのです。お百姓が鍛錬取つて働くのも、職人衆が早朝

から仕事に出るのも、町人方が算盤弾いて二一天作と商賣するのも皆これ佛の光明で、苟も我は久遠の佛ぞと氣が附いた上の働きは、觀音勢至釋迦阿彌陀と云ふやうな立派な佛や菩薩方が極樂淨土で遊戯するのと少しも違はぬ立派な佛行となるのです。本證妙修といふ不思議な道理もこの邊の消息を漏らしたもので、左程六づかしく考へるにも及びません。「修證義」の後の二章はここの道理のお示です。

極樂は十萬億土の彼方よと思ひの外、黄金花咲く春の野も錦を欺く秋の山も此世乍らの淨土の莊嚴。佛には死んだ後でなければ成られぬ處か、この身この儘が遠の昔に佛であつたのだと、悟つたのはそも誰のお蔭か、壇上の諸佛を始め奉り、歴代の祖師方の御苦勞なされた其の御教のお蔭と心附

いたならば、朝あさな夕ゆふなの看經かんぎんに報恩ほうおんの誠まことを表あらはすは勿論もちろん。彌いやが上うへにも佛佛祖ぶつぷくその御心みこころにあやかつて、我が行おこなひを佛ほとけらしくして行く、これが誠まことに我宗信わがしゅうしん徒との安心あんじんであり又行持またぎやうじであります。

在曹洞宗聖典大尾家

大正二年十二月十二日印
大正二年十二月十五日發行

不許複製

編輯者 茂木無文

東京市本郷區森川町一番地

發行者 大島誠一

東京市麹町區有樂町二丁目一番地

印刷者 中村政雄

報文社印刷

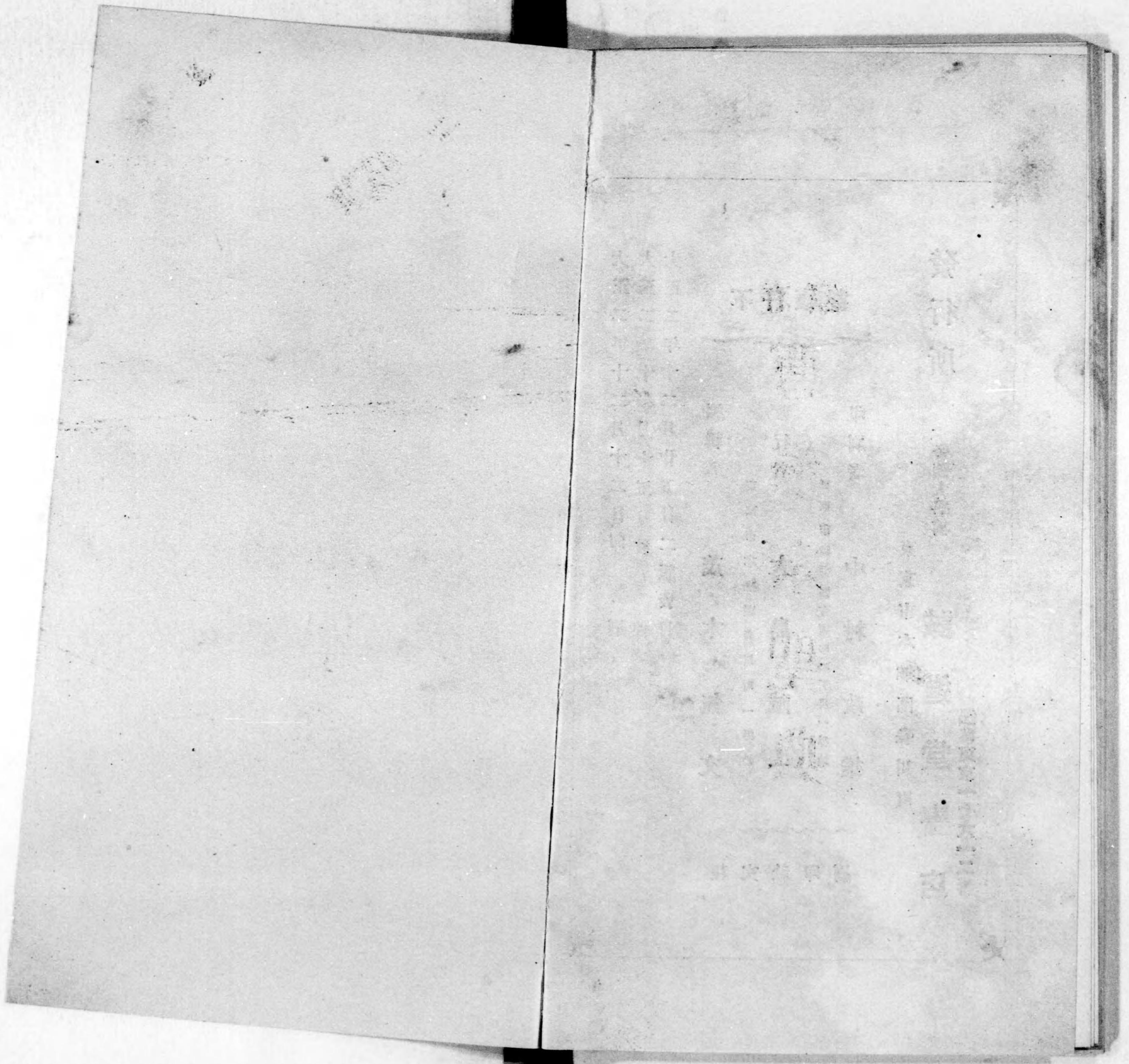
發行所

帝國大學前

東京市本郷區森川町

誠進堂書店

振替東京一七六一二番



274
578

終

